



いつでも
どこでも
だれでも

呉市 スポーツ振興計画

Kure City sports promotion plan

スポーツに
親しめるまち呉

呉市（平成29年）

目 次

第1章 計画の趣旨	1
1 計画策定の背景	1
2 計画の策定に当たって	2
3 計画の期間	3
4 計画における「スポーツ」	3
第2章 呉市のスポーツをめぐる現状と課題	4
1 市の概要	4
2 呉市の人口構成	5
3 呉市の競技スポーツの歴史	6
4 呉市におけるスポーツ施設等の設置状況	7
5 スポーツに関する市民の意識	8
6 呉市が抱える課題	24
第3章 計画の基本的な考え方	25
1 目指すべき姿	25
2 基本目標及び施策の体系	25
第4章 基本目標及び施策の実施	26
1 呉市のスポーツの課題と課題解決に向けた方向性	26
基本目標1：ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	26
施策展開 (1) 生涯スポーツの推進	26
施策展開 (2) 総合型地域スポーツクラブの充実	27
施策展開 (3) ジュニアスポーツの活性化	28
基本目標2：競技スポーツの振興	31
施策展開 (1) トップアスリートの計画的育成	31
施策展開 (2) 「観る」機会の充実	32
基本目標3：スポーツ環境の整備	33
施策展開 (1) 新たなニーズに応じた施設の計画的整備	33
施策展開 (2) スポーツイベント情報の発信	35
施策展開 (3) 競技団体の活性化	36
2 事業実施計画一覧表	38
第5章 計画の推進に向けて	39
1 基本的姿勢	39
2 評価指標	39
3 進捗の管理・評価	40

第1章 計画の趣旨

1 計画策定の背景

呉市では、平成18年3月に「呉市スポーツ振興計画～躍動！感動！スポーツ呉」を策定し、「するスポーツの振興」、「みるスポーツの振興」、「ささえるスポーツの振興」の観点から、各種スポーツ施策を推進してきました。

この間、呉市のスポーツを取り巻く社会環境は、少子・高齢社会の進展、価値観の多様化などにより大きく変化していますが、青少年の健全育成、健康づくりや生きがいづくりなど、子どもから高齢者まで全ての人に対して、スポーツによる心身両面にわたる効果が期待されるようになってきました。

近年、気軽に誰もが楽しみながら健康増進や体力づくりを行うことができるウォーキングやジョギングなどの軽スポーツが広く普及してくるなど、市民のスポーツに対するニーズも多様化しています。

一方、国においても、平成25年9月の国際オリンピック委員会総会において、平成32年（2020年）に東京都でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることが決定されるとともに、スポーツに関する施策を総合的に推進するためにスポーツ庁が設立されるなど、スポーツを取り巻く環境が大きく変化しています。

このような現状とこれまでの呉市の取組状況を踏まえた上で、呉市におけるスポーツの多面的な役割を改めて明確にする必要があります。

また、市民一人一人の生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現と、健康で活力に満ちた地域社会の創出に向けて、新たなスポーツ振興施策の展開が求められています。

このようなことから、今後の呉市のスポーツ施策を総合的・計画的に推進するため、「呉市スポーツ振興計画」（第2次）（以後、本計画といいます。）を策定することとしました。

2 計画の策定に当たって

(1) 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 10 条の規定による「地方スポーツ推進計画」として策定するものであり、呉市のスポーツ振興に関する施策の基本的方向と具体的施策を定める計画として位置付けるものです。

(2) スポーツ基本法及びスポーツ基本計画

平成 23 年 6 月、制定後 50 年が経過したスポーツ振興法が見直され、新たに「スポーツ基本法」が制定されました。

また、スポーツ基本法第 9 条の規定に基づき、国のスポーツの推進に関する基本的な計画として「スポーツ基本計画」が策定され、同法第 10 条では、地方公共団体は、国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めることとしています。

(3) スポーツの意義

(ア) 国の「スポーツ基本計画」

「スポーツ基本計画」では、スポーツの果たす役割の重要性を踏まえ、「スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の創出が必要であるとされ、目指すべき社会の姿として以下の五つが掲げられています。

ア 青少年が健全に育ち、他者との協同や公正さと規律を重んじる社会

イ 健康で活力に満ちた長寿社会

ウ 地域の人々の主体的な協働により、深いきずなで結ばれた一体感や活力がある地域社会

エ 国民が自国に誇りを持ち、経済的に発展し、活力ある社会

オ 平和と友好に貢献し、国際的に信頼され、尊敬される国

(イ) 広島県の「スポーツ振興計画」

広島県は、「日本で一番スポーツを身近に楽しめる広島県の実現」を基本理念として、取り組むべき施策の方向性として、以下の四つが掲げられています。

ア 地域スポーツの推進（ライフステージに応じた施策展開）

イ 競技スポーツの推進（トップアスリートの発掘、育成・強化までの施策展開）

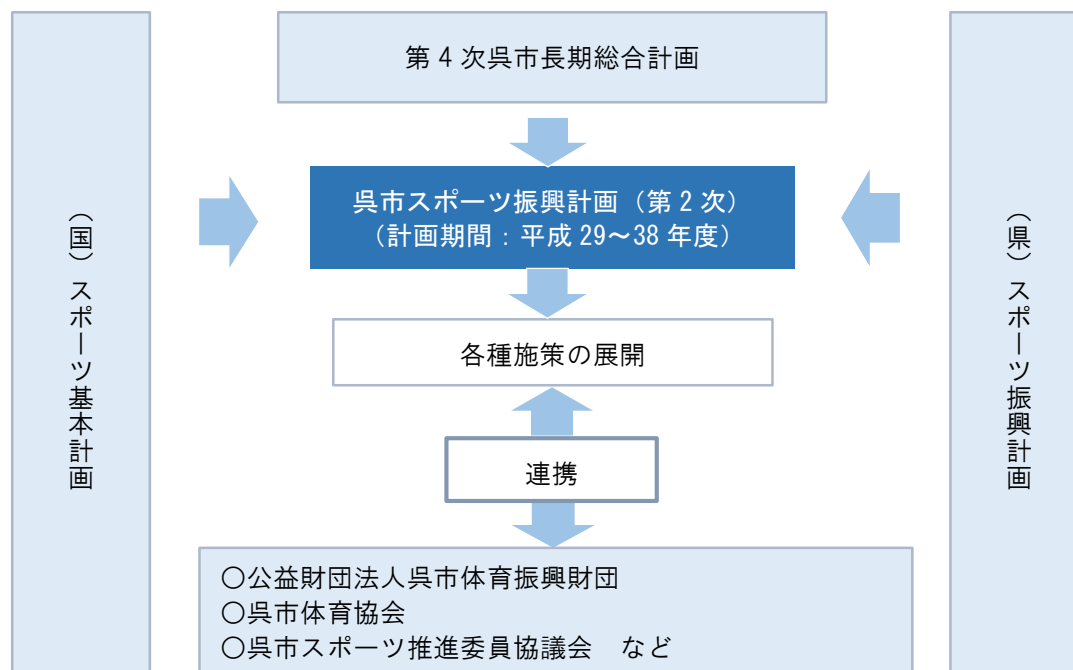
ウ 人材の循環（県出身アスリートが引退後、広島で指導者となる好循環の構築）

エ 環境整備（スポーツ活動を支える体制づくり、スポーツの場づくり、スポーツによる活力づくり）

(4) 関連計画との整合性

呉市のまちづくりの基本となる「第 4 次呉市長期総合計画」におけるスポーツ振興の位置付けは、郷土を愛し、豊かな心を持つ、未来を担う人材の育成に重点的に取り組むこととしています。

この「第 4 次呉市長期総合計画」を上位計画として、従前計画における基本的な考え方を踏襲しつつ、国の「スポーツ基本計画」、広島県の「スポーツ振興計画」や、呉市の関連する各種計画と整合性を図りながら、スポーツ分野における具体的な取組を推進していきます。



【図-1：計画の位置付け】

3 計画の期間

本計画の期間は、平成29年度から平成38年度までの10年間とします。

また、本計画をより具体化した重点施策では、「短期計画」をおおむね3年以内、「中期計画」をおおむね5年以内、「長期計画」をおおむね10年以内とします。

なお、この期間中、進捗状況や社会経済情勢等の変化に応じて計画の見直しの必要性が生じた場合は、適宜これに対応します。

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
本計画	呉市スポーツ振興計画（第2次）									
重点施策	短期計画									
	中期計画									
	長期計画									

【図-2：計画の期間】

4 計画における「スポーツ」

本計画では、スポーツをより身近なものと感じていただくため、スポーツの概念を幅広く捉えています。

このため、ルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康の維持増進のためのウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなど、目的を持った身体活動の全てをスポーツとして捉えます。

第2章 呉市のスポーツをめぐる現状と課題

1 市の概要

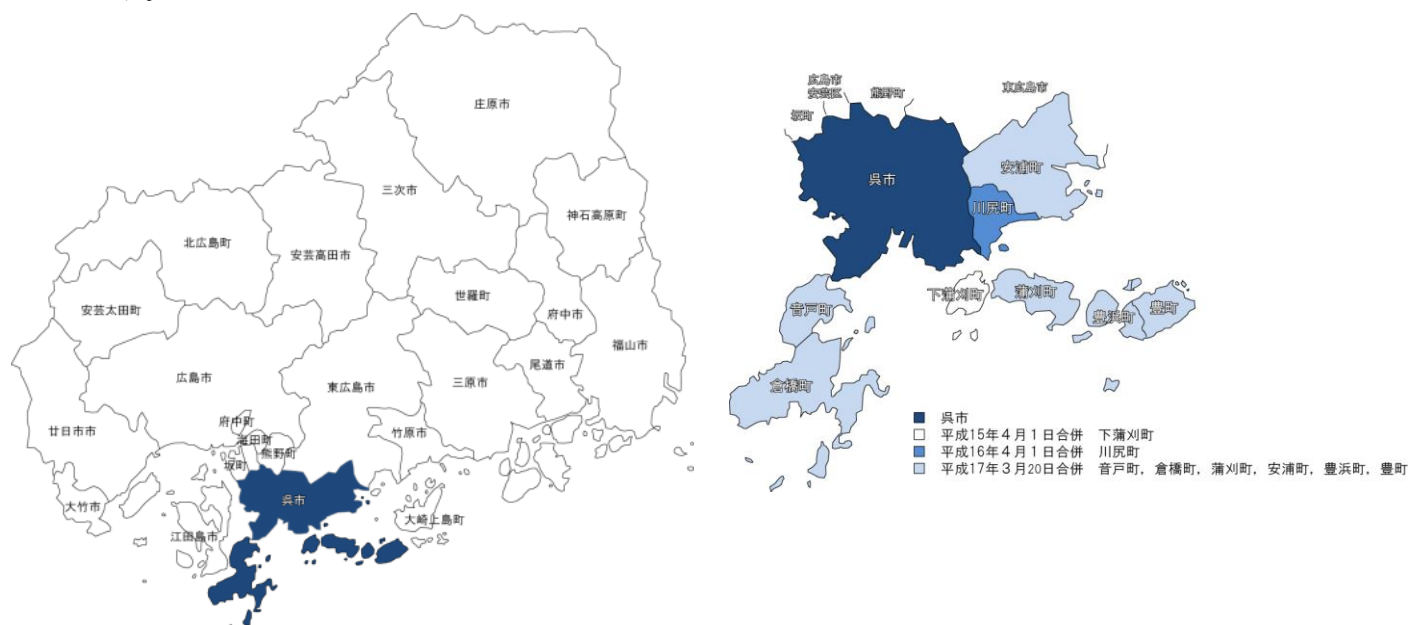
呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市です。

明治22年、海軍鎮守府の開庁を機に本格的な市街地の形成が進められ、明治35年10月1日に市制を施行し、最盛期の昭和18年には人口40万人を超える、日本一の海軍工しょうを擁するまちに発展しました。

終戦による海軍の解体とともに、人口も15万人に激減しましたが、昭和25年の平和産業港湾都市への転換を目指す「旧軍港市転換法」の制定により、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ産業等の企業が進出し、瀬戸内有数の臨海工業都市としての基盤を確立し、広島県の産業をけん引するとともに、平成12年には特例市の指定を受け、地方分権時代における広島県芸南地域の新たな担い手として重要な役割を担っています。

また、平成14年には全国で52番目に市制施行100周年を迎えるとともに、市町村合併の推進にも積極的に取り組み、平成15年4月に下蒲刈町と、平成16年4月に川尻町と、平成17年3月に音戸町、倉橋町、蒲刈町、安浦町、豊浜町、豊町と合併して現在の市域となり、平成28年4月には全国で46番目の中核市「呉」が誕生しました。

市域面積は352.80平方キロメートルで、瀬戸内海で最も長い約300キロメートルの海岸線を有しています。陸地部の北部には、灰ヶ峰、野呂山を始め、標高300～800メートル前後の山が連なり、島しょ部においても、標高200～400メートル前後の山があり、市域全体を通じて平坦な地が少なく、集落が分断された形となっています。こうした地形は、市街地を形成する上で不利な点もありますが、一方で山と海と風光明媚な自然に恵まれ、中でも、瀬戸内海の多島美は、貴重な観光資源として、また、市民の憩いのレクリエーションの場としても親しまれています。



【図-3：呉市の位置，地区区分】

2 呉市の人口構成

■少子高齢化の進展

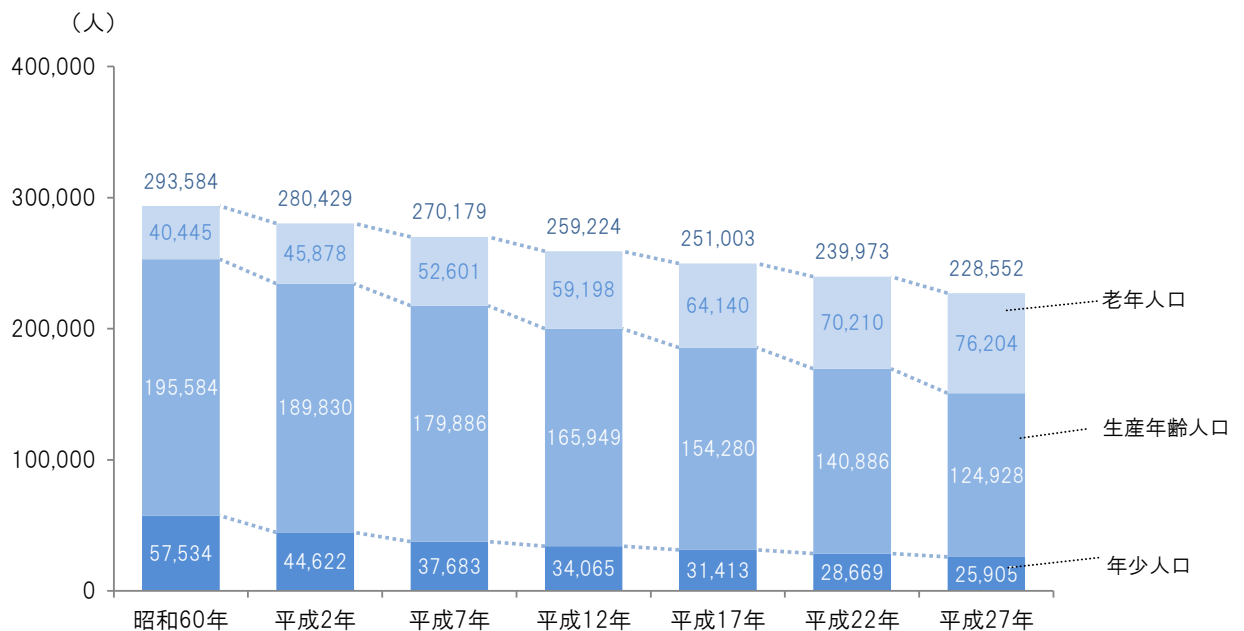
総人口及び年齢別の動向をみると、総人口は昭和 60 年の 293,584 人（平成 15 年度以降の合併地域を含む）から平成 27 年には 228,552 人と 65,032 人減少しています。

全国的に少子化が進む中で、呉市においても年少人口は減少を続けており、昭和 60 年の 57,534 人から平成 27 年には 25,905 人と 30 年間で 5 割以上減少しています。これに対し、老年人口は増加を続けており、人口構造の変化が顕著となっています。

【年齢 3 区分別人口の推移】

（単位：人，％）

	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
総人口	293,584 100.0	280,429 100.0	270,179 100.0	259,224 100.0	251,003 100.0	239,973 100.0	228,552 100.0
年少人口 0～14 歳人口	57,534 19.6	44,622 15.9	37,683 13.9	34,065 13.1	31,413 12.5	28,669 11.9	25,905 11.4
生産年齢人口 15～64 歳人口	195,584 66.6	189,830 67.7	179,886 66.6	165,949 64.0	154,280 61.5	140,886 58.7	124,928 55.0
老年人口 65 歳以上人口	40,445 13.8	45,878 16.4	52,601 19.5	59,198 22.8	64,140 25.6	70,210 29.3	76,204 33.6



資料：国勢調査（昭和 60 年～平成 27 年）呉市

注 1：人口は、いずれも合併町分を含む。

注 2：総人口及び構成比は年齢不詳者を含むため、各年齢層の合計と一致しない。

3 呉市の競技スポーツの歴史

呉市のスポーツの誕生は、海軍に影響されたといえます。明治 23 年には、当時呉にあった小学校在連合運動会を開催するなど、日清・日露の戦後の度に盛大な戦勝歓迎会を開催し、その余興としてスポーツが紹介されています。

この頃から市内に数多くの野球チームが誕生し、大正 5 年には呉市体育協会の前身となる呉野球協会が創設されました。また、同年に御大典記念事業として野球や陸上競技に使える二河公園がしゅん工しました。

大正 8 年には、野球以外の競技人口が急激に増加したことにより、野球協会を発展的に解消して「呉体育協会」を設立し、庭球、卓球、野球、軟球、陸上競技、相撲及び水泳の 7 部を設置しました。

昭和に入り、呉市のスポーツは黄金時代を迎え、陸上、バレーボール、サッカー、卓球及び水泳などの種目で全国トップレベルでの活躍が続きました。

その後、昭和 26 年に第 6 回国民体育大会夏季大会の水泳競技が呉市営プール（昭和 25 年完成）で開催され、秋季大会では軟式野球、軟式庭球、バレーボール、卓球及び射撃の 5 種目が開催されています。

国民体育大会のために整備された施設は、レベルの高い競技会を誘致し、市民にスポーツに対する理解を深めるきっかけとなり、昭和 39 年（東京オリンピック開催年）に呉市体育館が完成したことを始めに、広地区に温水プールを、昭和・警固屋地区に体育館やテニスコートを整備するとともに、市内の多目的広場及び小・中学校に夜間照明設備を設置するなど、各地域におけるスポーツ活動の拠点となる施設の整備が行われました。

一方、ソフト面では、昭和 38 年にスポーツ活動の実技指導や助言を行う呉市体育指導委員の制度が発足し、昭和 59 年には市民スポーツ育成と競技力の向上、選手育成及び体育施設の管理運営のため、財団法人呉市体育振興財団（平成 24 年 4 月財団法人から公益財団法人に移行）が設立されました。

平成に入り、平成 6 年には第 12 回アジア競技大会、平成 8 年には第 51 回国民体育大会夏季・秋季大会、平成 13 年には全国健康福祉祭（ねんりんピック）、平成 14 年には第 15 回全国スポーツ・レクリエーション祭など数々の大会を呉市で開催しました。

平成 15 年には呉市総合体育館（オークアリーナ）が落成し、平成 17 年には郷原町の高規格スポーツ施設を民間から取得し、呉市総合スポーツセンターとしました。

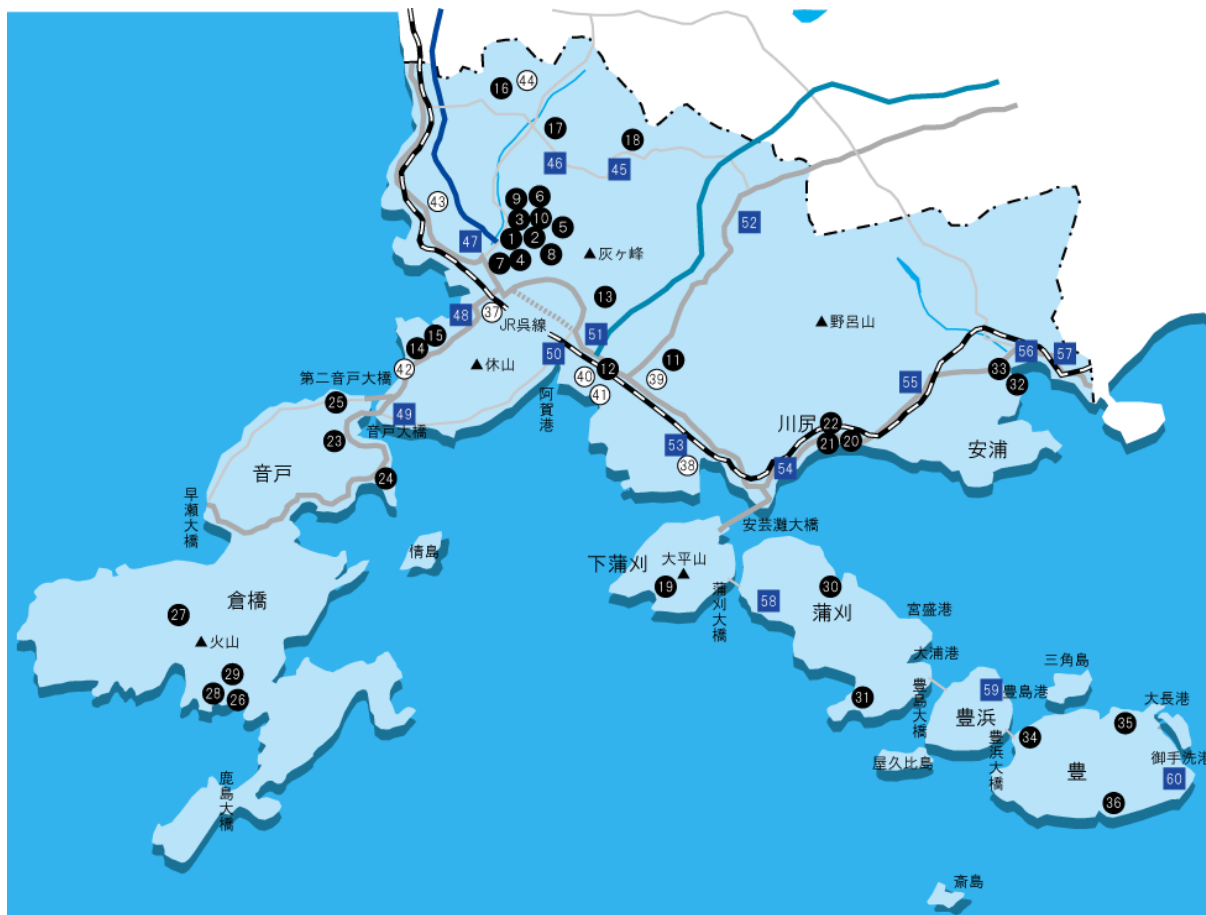
平成 17 年 4 月までの近隣 8 町との市町村合併では、各町の施設を引き継ぐとともに、平成 17 年に川尻グラウンド、平成 24 年に渡子多目的グラウンドの整備を行いました。

平成 27 年 8 月には、呉市体育協会の創立 100 周年を機に、日本体育大学と「スポーツ振興に関する協定」を締結し、現在は、連携事業の発展に努めています。



学校法人日本体育大学との協定締結

4 呉市におけるスポーツ施設等の設置状況



【スポーツ施設】

- | | | | |
|------------------|--------------------|----------------------|----------------------|
| ① 呉市二河野球場 | ⑫ 呉市営温水プール | ⑳ 呉市川尻温水プール | ㉓ 呉市蒲刈グラウンド |
| ② 呉市二河公園多目的グラウンド | ⑬ 呉市大空山体育館 | (かわせみプール) | ㉔ 呉市蒲刈B&G海羊センター |
| ③ 呉市バレーボール場 | ⑭ 呉市警固屋テニスコート | ㉕ 呉市音戸プール | (体育館、プール、艇庫) |
| ④ 呉市テニスコート | ⑮ 呉市警固屋体育館 | ㉖ 呉市大浦崎スポーツセンター | ㉗ 呉市安浦体育館 |
| ⑤ 呉市弓道場(近的) | ⑯ 呉市昭和テニスコート | (マリンふれあいの里) | (アリーナかもめ) |
| ⑥ 呉市弓道場(遠的) | ⑰ 呉市昭和体育館 | (体育館、会館、キャンプ場、グラウンド、 | ㉘ 呉市安浦武道場 |
| ⑦ 呉市体育館 | ⑱ 呉市総合スポーツセンター | テニスコート、ゲートボール場) | ㉙ 呉市豊浜グラウンド |
| ⑧ 呉市スポーツ会館 | (野球場、陸上競技場、テニスコート、 | ㉚ 呉市渡子多目的グラウンド | ㉛ 呉市豊プール |
| ⑨ 呉市二河屋内練習場 | 可遊場、多目的グラウンド) | ㉜ 呉市倉橋テニスコート | ㉝ 呉市豊スポーツセンター |
| ⑩ 呉市営プール | ㉑ 呉市下蒲刈プール | ㉞ 呉市倉橋グラウンド | (体育館、ニュースポーツ館、グラウンド) |
| ⑪ 呉市総合体育館 | ㉒ 呉市川尻グラウンド | ㉟ 呉市倉橋体育館 | |
| (オークアリーナ) | ㉓ 呉市川尻東プール | ㊱ 呉市くらはし温水プール | |
| | | (ウィングくらはし) | |

【公園多目的広場等】

- | | | | |
|--------------|-------------|--------------|-------------|
| ㉟ 入船山公園多目的広場 | ㊲ 広公園多目的広場 | ㊳ 虹村公園野球場 | ㊴ 吉浦運動場 |
| ㊵ 仁方運動広場 | ㊶ 虹村公園多目的広場 | ㊷ 警固屋公園多目的広場 | ㊸ 焼山公園多目的広場 |

※下線部は、夜間照明設備あり

【その他夜間照明設備のある学校施設】

- | | | | |
|--------------|-------------|------------|----------------|
| ㊹ 旧呉市立昭和東小学校 | ㊺ 呉市立警固屋中学校 | ㊻ 呉市立仁方中学校 | ㊼ 旧呉市立三津口小学校 |
| ㊽ 呉市立昭和中学校 | ㊾ 呉市立阿賀中学校 | ㊿ 呉市立川尻中学校 | ㊽ 呉市立蒲刈小・蒲刈中学校 |
| ㊿ 呉市立呉中央中学校 | ㊽ 呉市立横路中学校 | ㊽ 呉市立安登小学校 | ㊽ 呉市立豊浜中学校 |
| ㊽ 呉市立宮原中学校 | ㊽ 呉市立郷原中学校 | ㊽ 呉市立安浦中学校 | ㊽ 旧呉市立豊小学校 |

5 スポーツに関する市民の意識

本計画策定のための基礎資料とすることを目的として、市民を対象にアンケート調査を実施しました。

■調査概要

(1) 調査対象者

呉市内在住の 18 歳以上の男女

(2) 調査方法

呉市スポーツ推進委員による配布、回収（留め置き法。一部、郵送回収）

(3) 調査期間

平成 28 年 8 月 22 日～同年 9 月 23 日

(4) 回収率

84.8%（1,696 人）

(5) 調査の主な内容

ア スポーツに関する活動状況と施設の利用状況について

イ スポーツの観戦状況について

ウ トップアスリートの育成について

エ スポーツに関わるボランティア活動と研修等について

オ スポーツ振興を図るための必要な施策について

(6) 調査結果の留意点

ア 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。

そのため、百分率の合計が 100%にならないことがあります。

イ 設問の中に複数回答が可能な質問があるため、回答の合計が調査数を上回ることがあります。

ウ クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。



(1) 回答者の属性

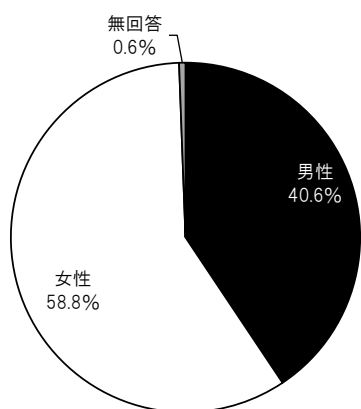
性別については、「女性」が 58.8%に対し、「男性」が 40.6%で、女性の割合が高くなっています。

年齢については、「60代」が 25.1%で最も多く、次いで、「70歳以上」が 22.1%、「40代」が 18.3%の順となっており、60代以上が 47.2%と約半数を占めています。

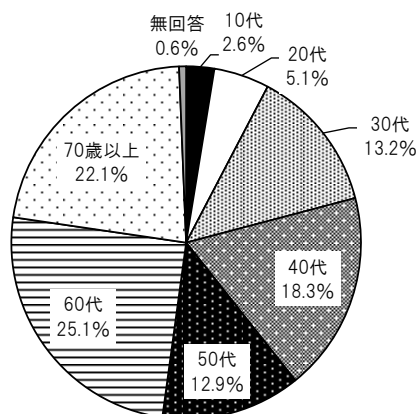
居住地については、「中央地区」が 19.9%で最も多く、次いで、「広地区」が 14.9%、「昭和地区」が 11.9%などの順となっています。

職業については、「公務員、会社員」が 25.6%で最も多く、次いで、「無職」が 22.8%、「パート、アルバイト」が 16.3%などの順となっています。

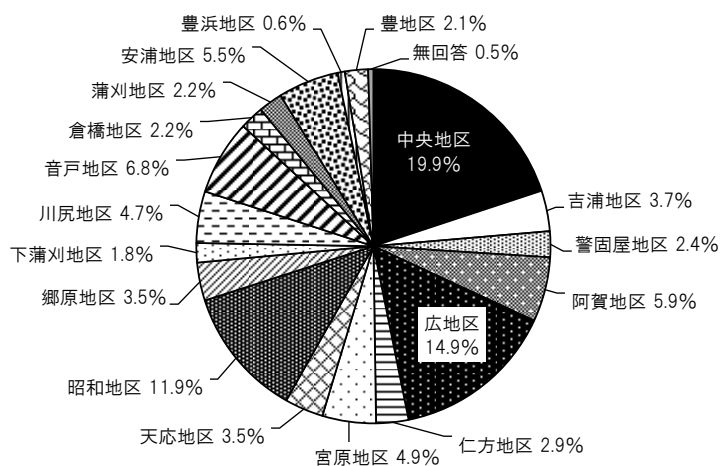
回答者の性別 (n=1,696)



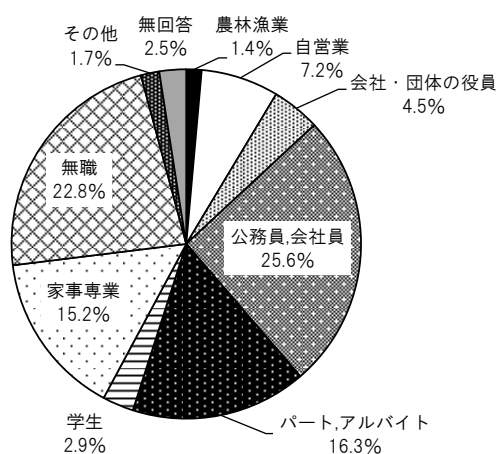
回答者の年齢 (n=1,696)



回答者の居住地 (n=1,696)



回答者の職業 (n=1,696)

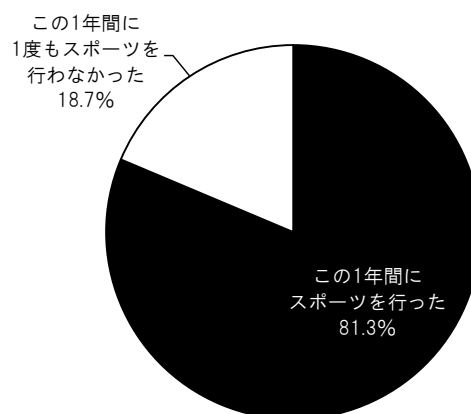


(2) この1年間に行ったスポーツ(健康づくりを含む)は何ですか？(複数回答可)(n=1,696)

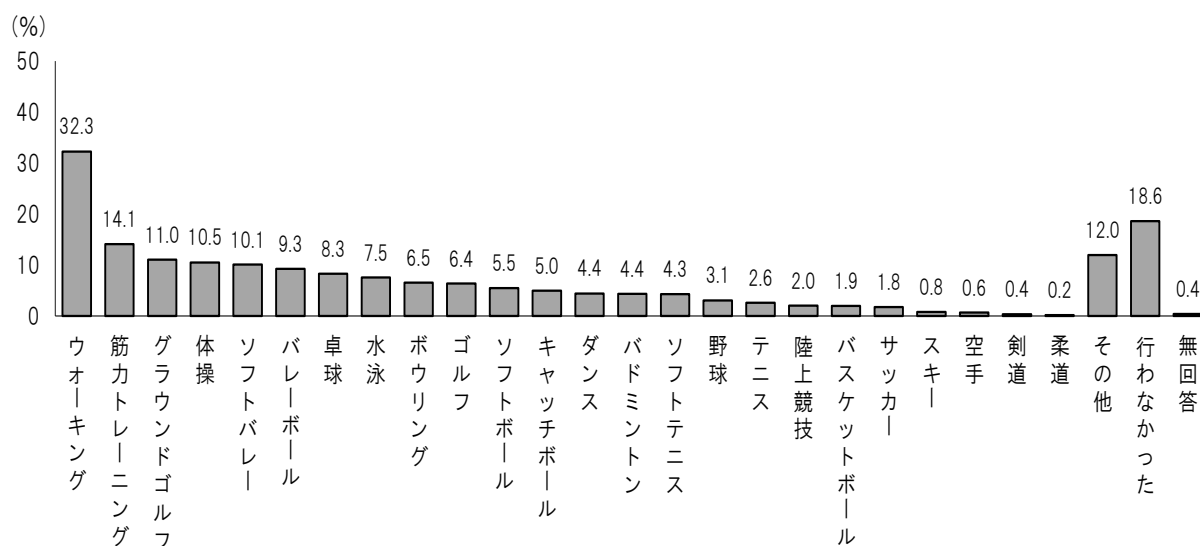
「この1年間にスポーツを行った」人の割合は81.3%、「この1年間に1度もスポーツを行わなかった」人の割合は18.7%となっています。

「この1年間にスポーツを行った」人の行ったスポーツは、「ウォーキング」32.3%が最も多く、次いで、「筋力トレーニング」14.1%、「グラウンドゴルフ」11.0%となっています。

「その他」では、ヨガ、登山、ランニング、ビーチボールバレー、ストレッチが多数ありました。



注：無回答を含まない。



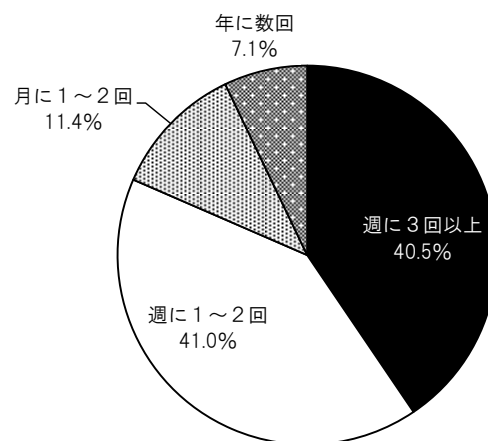
注：「行わなかった」とは、この1年間に1度もスポーツ(健康づくりを含む)を行わなかったと回答された方



呉市健康の日ウォーキング大会

(3) この1年間どの程度スポーツ（健康づくりを含む）を行いましたか？（n=1,266）

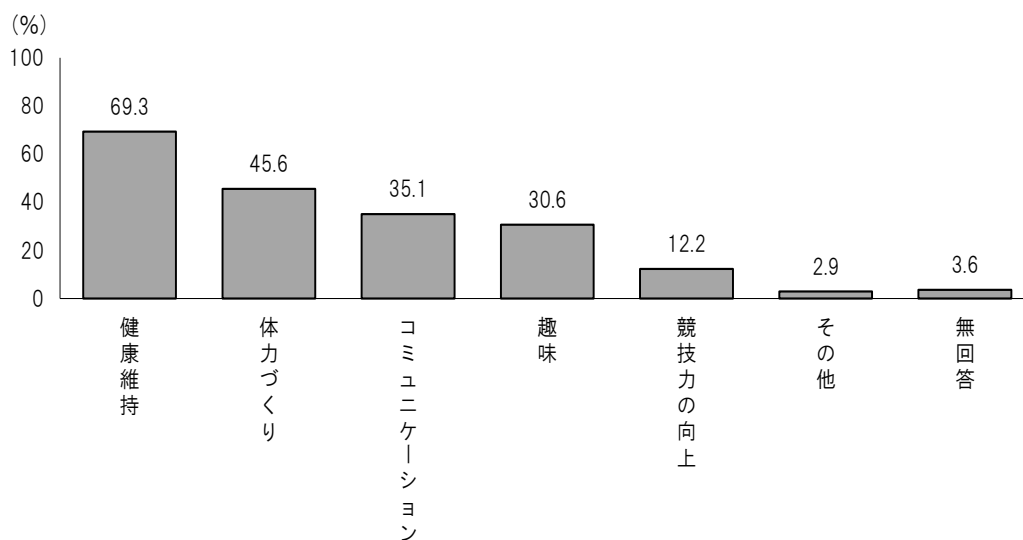
この1年間にスポーツ（健康づくりを含む）を行った回数は、「週に1～2回」が41.0%で最も多く、次いで、「週に3回以上」が40.5%、「月に1～2回」が11.4%などの順となっています。



注：無回答を含まない。

(4) スポーツ（健康づくりを含む）をする目的は何ですか？（複数回答可）（n=1,374）

スポーツを行う目的は、「健康維持」が最も多く、次いで、「体力づくり」、「コミュニケーション」などの順となっています。「健康維持」や「体力づくり」など自分自身の健康のためにスポーツを行う人が多くなっています。



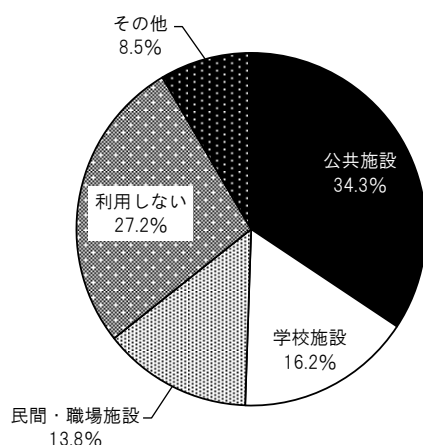
(5) 主にどんな施設を利用していますか？

主として利用している施設は、「公共施設」が 34.3%で最も多く、次いで、「特に利用しない」が 27.2%、「学校施設」が 16.2%などの順となっています。

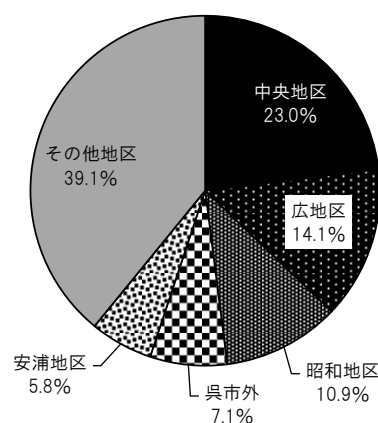
「その他」では、自宅・自宅周辺、公園・河川敷などがあります。

主として利用している施設の地区は、「中央地区」が 23.0%で最も多く、次いで、「広地区」が 14.1%、「昭和地区」が 10.9%などの順となっています。

主として利用している施設 (n=2,099)



主として利用している施設の地区 (n=1,980)

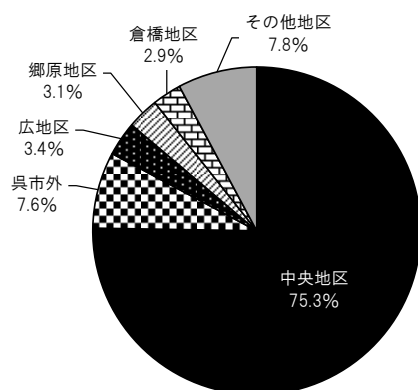


注：「公共施設」は、学校施設を除く。「利用しない」は、特に施設は利用しないと回答された方。無回答を含まない。

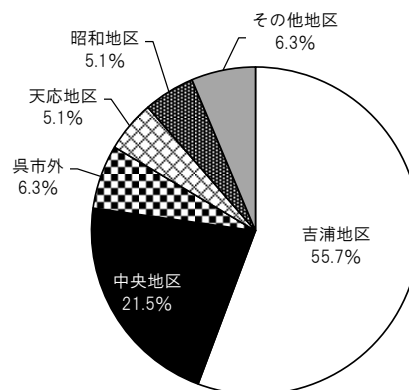
【居住地別】

居住地別にみると、居住地の地区の施設を利用している方が多くなっています。どの地区も居住地での施設利用が半数以上を占めていますが、郷原地区については居住地での施設利用が半数未満で、「呉市外」21.1%、「阿賀地区」19.7%の施設利用が多くなっています。

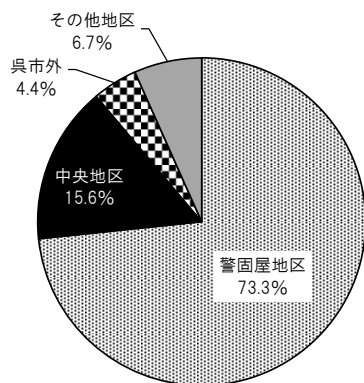
中央地区 (n=384)



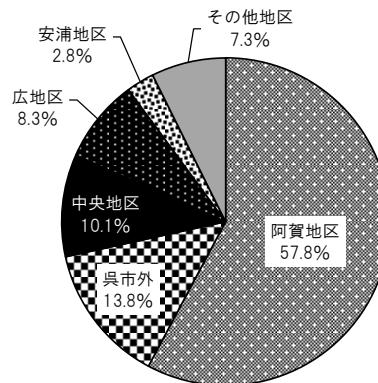
吉浦地区 (n=79)



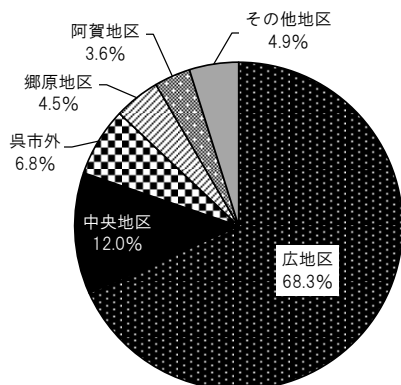
警固屋地区 (n=45)



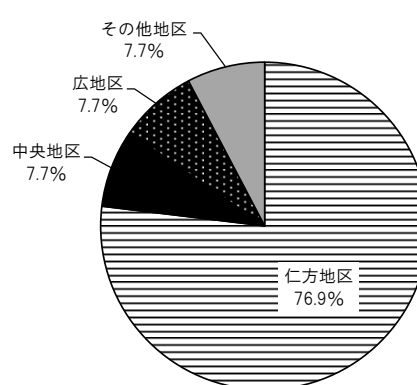
阿賀地区 (n=109)



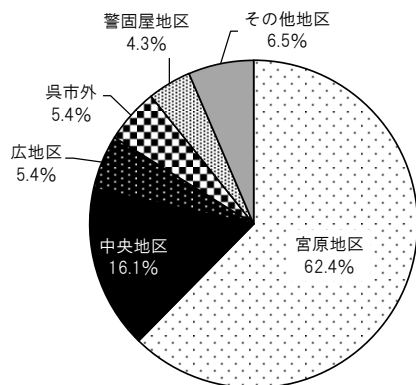
広地区 (n=309)



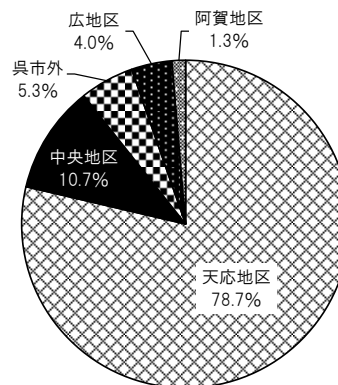
仁方地区 (n=52)



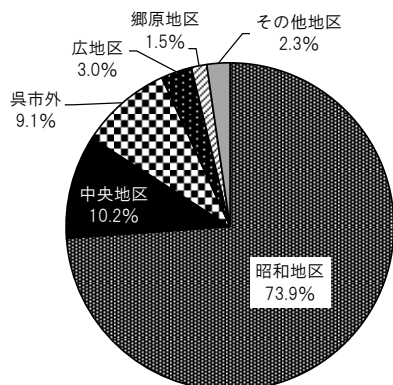
宮原地区 (n=93)



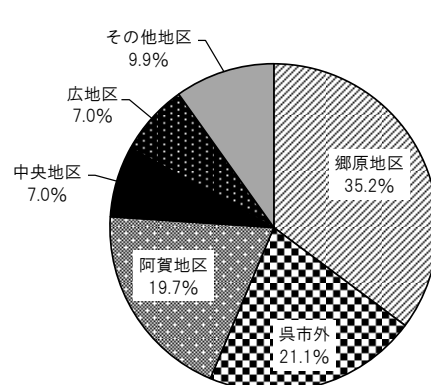
天応地区 (n=75)



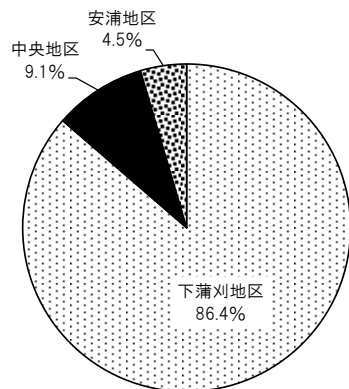
昭和地区 (n=264)



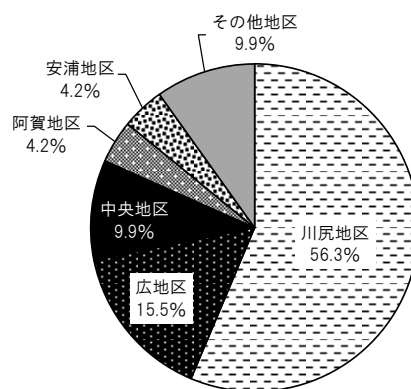
郷原地区 (n=71)



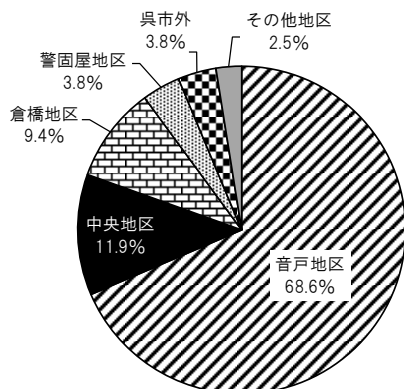
下蒲刈地区 (n=22)



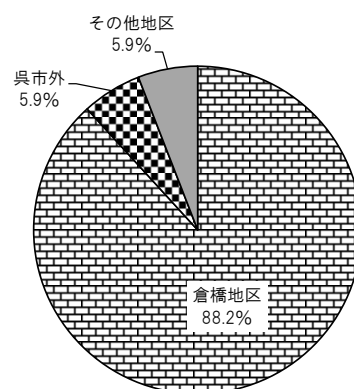
川尻地区 (n=71)



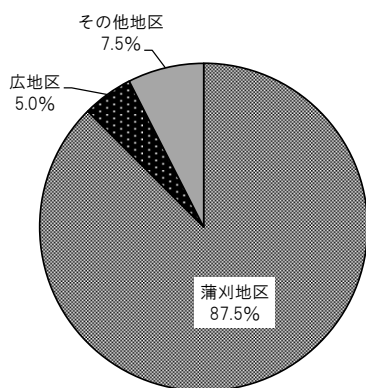
音戸地区 (n=159)



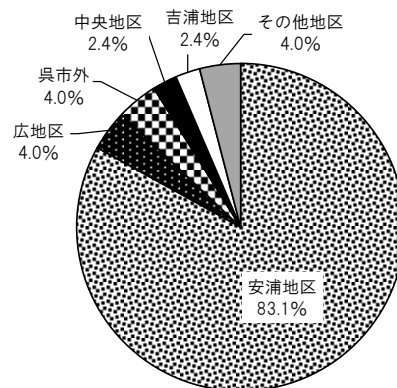
倉橋地区 (n=34)



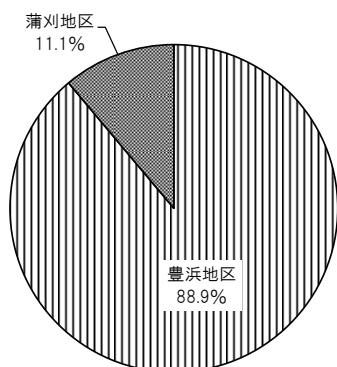
蒲刈地区 (n=40)



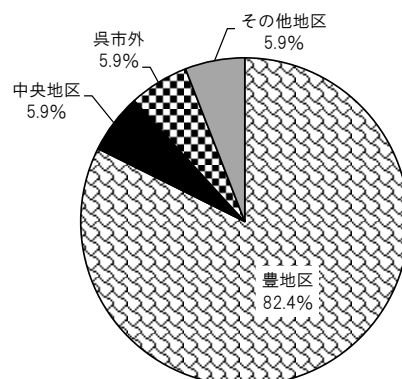
安浦地区 (n=124)



豊浜地区 (n=9)



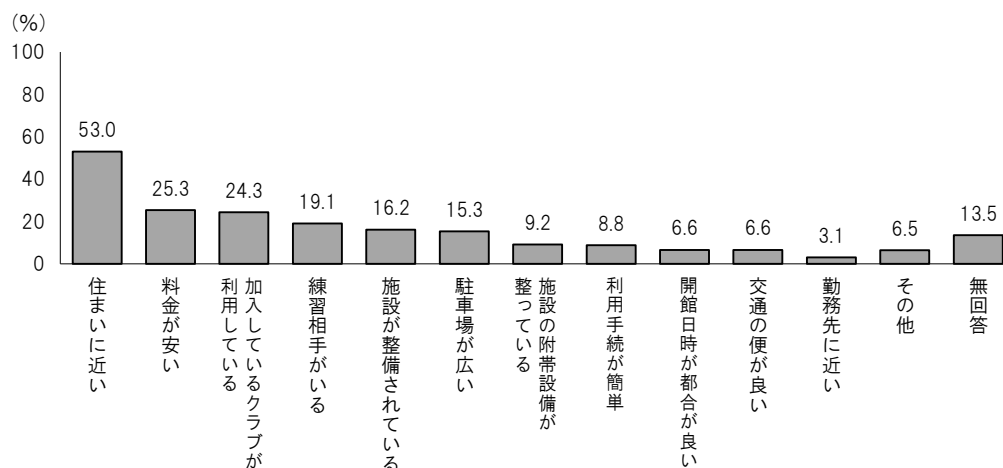
豊地区 (n=34)



(6) 施設を選ぶ理由は何ですか？（複数回答可）（n=1,374）

施設を選ぶ理由は、「住まいに近い」が 53.0%で最も多く、次いで、「料金が安い」、「加入しているクラブが利用している」などの順となっています。

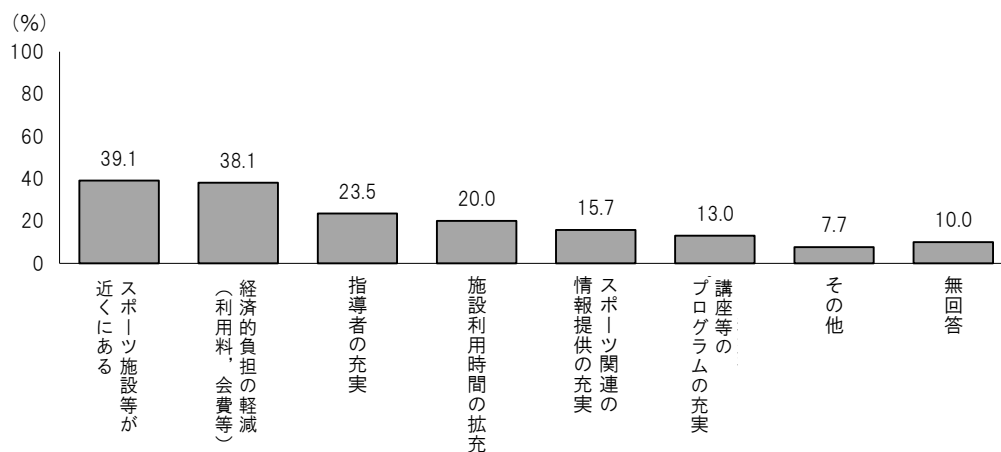
「その他」では、施設の利用環境などがあります。



(7) これまで以上にスポーツ（健康づくりを含む）を行うためには何が必要だと思われますか？（複数回答可）（n=1,374）

これまで以上にスポーツを行うために必要なことは、「スポーツ施設等が近くにある」が 39.1%で最も多く、次いで、「経済的負担の軽減（利用料、会費等）」、「指導者の充実」などの順となっています。スポーツの実施には、気軽に利用できる（近く、安く）施設が求められています。

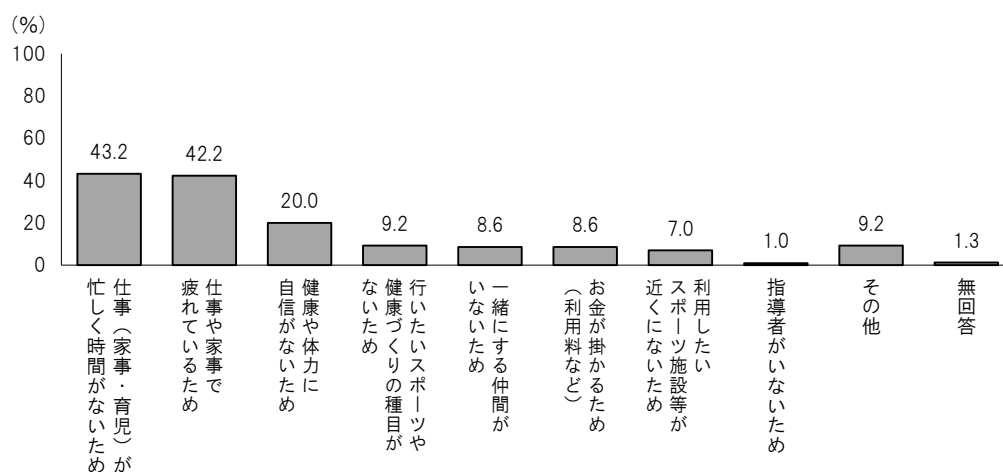
「その他」では、施設の利用環境、施設の整備、時間の確保、やる気などがあります。



(8) この1年間にスポーツ（健康づくりを含む）を行わなかった理由は何ですか？
（複数回答可）（n=315）

この1年間にスポーツを行わなかった理由は、「仕事（家事・育児）が忙しく時間がないため」が43.2%で最も多く、次いで、「仕事や家事で疲れているため」、「健康や体力に自信がないため」などの順となっています。仕事や家事でスポーツを行う時間に取りにくい状況と考えられます。

「その他」では、身体的問題、スポーツが苦手又は嫌いなどがあります。



(9) 今後、新たに行いたいと思うスポーツ（健康づくりを含む）は何ですか？
（複数回答可）

今後、新たに行いたいと思うスポーツは、年齢・性別にかかわらず、「ウォーキング」、「筋力トレーニング」が多くなっています。

「その他」では、ヨガ、登山、ランニングなどがあります。

年齢別にみると、10代～30代では、「バドミントン」、「水泳」も多くなっています。

単位(%)

種目	全体	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
野球(n=33)	1.9	3.5	0.9	18.2	5.7	4.9	1.6	0.5	0.7	0.0
ソフトボール(n=23)	1.4	3.0	0.2	0.0	3.4	1.3	2.3	1.8	0.7	0.8
サッカー(n=27)	1.6	3.3	0.4	9.1	6.9	3.1	3.2	0.0	0.0	0.0
バレーボール(n=40)	2.4	1.2	3.2	9.1	10.3	5.4	1.3	2.7	0.7	0.5
ソフトバレー(n=39)	2.3	1.3	2.9	0.0	6.9	3.1	2.9	2.7	1.6	1.1
バスケットボール(n=22)	1.3	1.0	1.5	4.5	4.6	3.1	1.9	0.9	0.2	0.0
バドミントン(n=136)	8.0	6.5	9.0	20.5	13.8	12.9	11.3	8.2	5.2	2.9
グラウンドゴルフ(n=66)	3.9	5.5	2.5	2.3	0.0	0.0	1.3	0.5	5.2	9.6
陸上競技(n=15)	0.9	1.2	0.6	4.5	1.1	0.9	1.6	0.9	0.5	0.3
柔道(n=3)	0.2	0.3	0.1	2.3	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0
剣道(n=4)	0.2	0.3	0.2	0.0	0.0	0.9	0.3	0.5	0.0	0.0
空手(n=9)	0.5	0.4	0.6	2.3	3.4	0.9	0.0	0.9	0.2	0.0
卓球(n=106)	6.3	5.8	6.4	6.8	8.0	5.8	6.4	5.9	5.9	6.4
水泳(n=179)	10.6	6.4	13.5	22.7	12.6	10.3	13.5	9.1	11.3	6.7
テニス(n=69)	4.1	3.3	4.6	11.4	3.4	6.3	7.4	5.5	1.4	1.3
ソフトテニス(n=48)	2.8	2.3	3.1	4.5	8.0	4.9	3.9	2.3	1.4	1.1
ゴルフ(n=57)	3.4	6.1	1.5	2.3	5.7	5.4	3.5	3.7	1.6	3.2
ボウリング(n=72)	4.2	4.1	4.4	0.0	4.6	4.9	3.9	4.6	5.6	2.9
スキー(n=25)	1.5	1.6	1.4	9.1	3.4	1.8	2.6	1.4	0.7	0.0
体操(n=118)	7.0	2.3	10.0	6.8	5.7	4.9	5.8	5.5	9.6	7.2
キャッチボール(n=23)	1.4	2.0	0.9	0.0	2.3	3.1	2.6	0.0	0.9	0.5
筋力トレーニング(n=290)	17.1	15.4	18.3	18.2	8.0	17.9	20.6	21.5	15.7	14.7
ダンス(n=75)	4.4	1.2	6.6	4.5	5.7	4.9	6.4	7.3	2.8	2.1
ウォーキング(n=323)	19.0	16.5	20.5	2.3	12.6	12.5	21.5	18.7	20.7	22.7
その他(n=95)	5.6	4.9	6.1	2.3	3.4	8.0	5.1	6.4	6.1	4.3
ない(n=443)	26.1	32.4	21.9	20.5	31.0	23.2	22.2	23.3	26.5	31.3
無回答(n=132)	7.8	7.1	8.2	2.3	5.7	1.8	3.5	7.3	8.5	15.8

注：「ない」は、今後、新たに行いたいスポーツ（健康づくりを含む）はないと回答された方

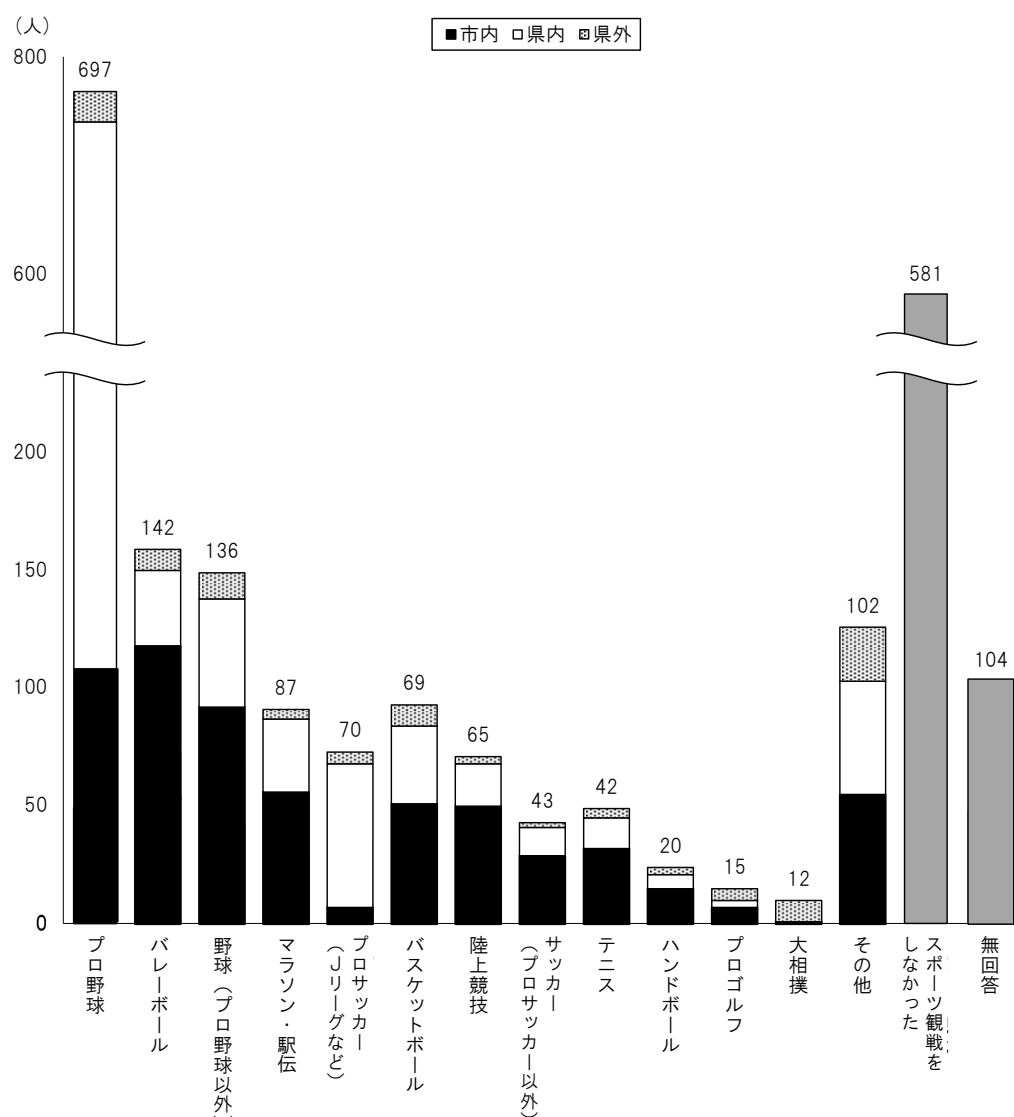
数値のうち■部は、全体・性別・年齢別それぞれの項目の上位3種目を示す。

(10)この1年間に競技場やグラウンドで、観戦したスポーツの試合（プロ、社会人などのトップスポーツや中学・高校生の全国大会など）は何ですか？また、観戦場所はどこですか？（複数回答可）（n=1,696）

この1年間に観戦したスポーツの試合は、「プロ野球」が最も多く、次いで、「バレーボール」、「野球（プロ野球以外）」などの順となっています。

「その他」では、ソフトボール、卓球、剣道、空手、ソフトテニス、バドミントン、水泳などがあります。

観戦場所は、全体的に「市内」が多くなっていますが、プロ野球、プロサッカー（Jリーグなど）では、「県内」が最も多くなっています。



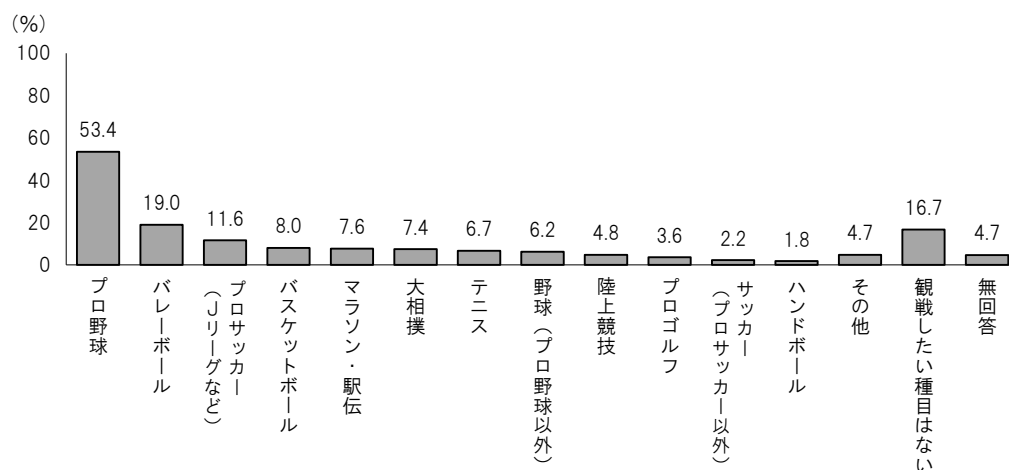
注：「スポーツ観戦をしなかった」は、この1年間に1度もスポーツ観戦をしなかったと回答された方

(11)今後、呉市内の競技場やグラウンドで、観戦したいと思う試合は何ですか？

(複数回答可) (n=1,696)

今後、呉市内で観戦したいと思う試合は、「プロ野球」が最も多く、次いで、「バレーボール」、「プロサッカー（Jリーグなど）」などの順となっています。

「その他」では、バドミントン、卓球、ソフトテニス、水泳などがあります。

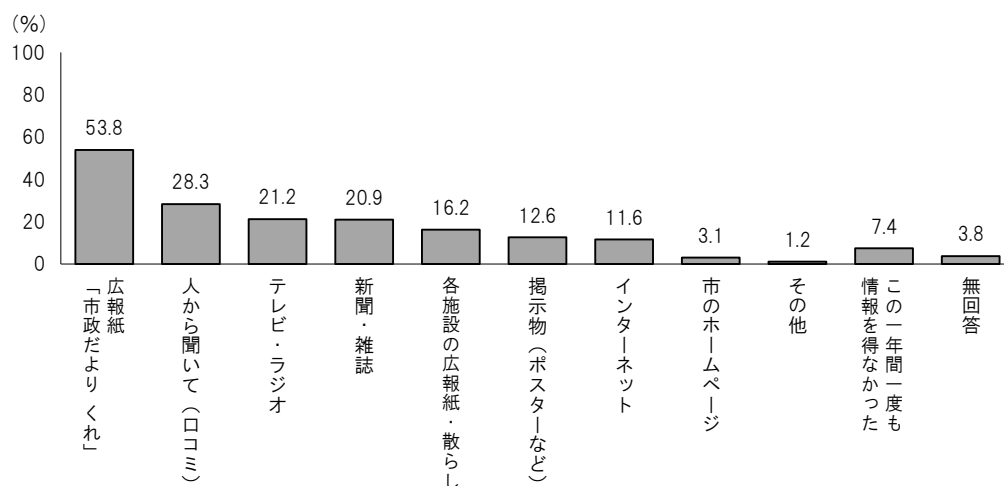


(12)市内のスポーツ（健康づくりを含む）に関する情報を、どのような方法で得ていますか？

(複数回答可) (n=1,696)

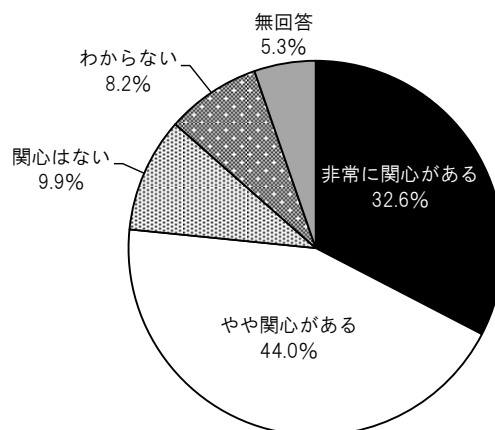
市内のスポーツに関する情報は、「広報紙『市政だより くれ』」が53.8%で最も多く、次いで、「人から聞いて（口コミ）」、「テレビ・ラジオ」などの順となっています。

この1年間に1度も情報を得なかった人は7.4%となっています。



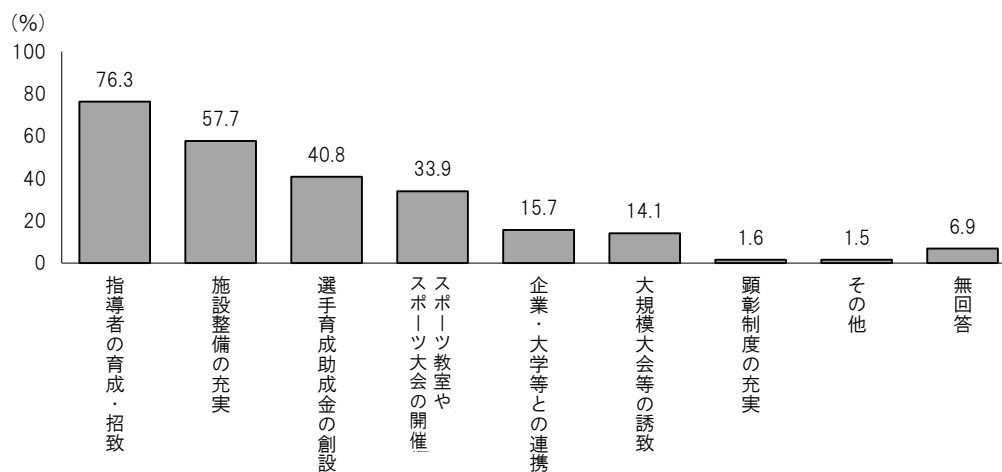
(13)オリンピックなどの国際大会、国民体育大会などの全国大会で、呉市出身の選手が活躍することに関心がありますか？（n=1,696）

呉市出身の選手が活躍することへの関心は、「非常に興味がある」と「やや興味がある」を合わせた 76.6%が「興味がある」と回答しています。



(14)トップアスリートを育成するためには、何が必要だと思いますか？（三つまで回答可）（n=1,299）

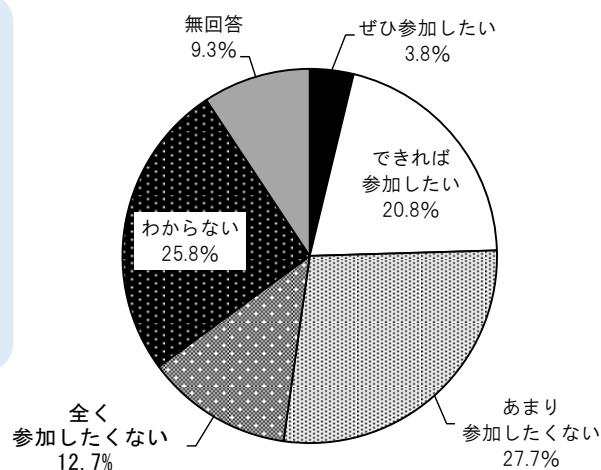
トップアスリートを育成するために必要なことは、「指導者の育成・招致」が 76.3%で最も多く、次いで、「施設整備の充実」、「選手育成助成金の創設」などの順となっています。



(15)今後、スポーツに関わるボランティア等の取組に参加したいと思いますか？（n=1,696）

今後、スポーツに関わるボランティア等の取組の参加については、「ぜひ参加したい」と「できれば参加したい」を合わせた「参加したい」は24.6%となっています。

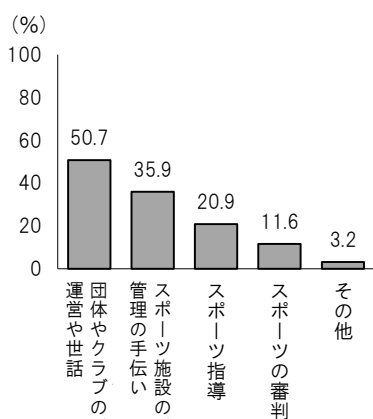
「あまり参加したくない」と「全く参加したくない」を合わせた40.4%が「参加したくない」と回答しています。



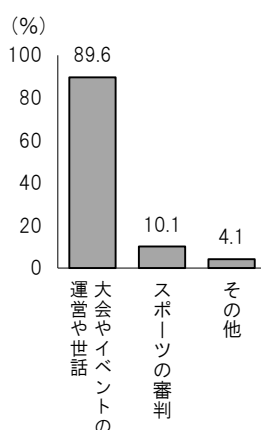
(16)どのようなボランティアに参加したいですか？（複数回答可）

日常的な活動で参加したいボランティアは、「団体やクラブの運営や世話」、呉市及び地区のスポーツイベント、県・全国大会イベントで参加したいボランティアは、「大会やイベントの運営の世話」が最も多くなっています。

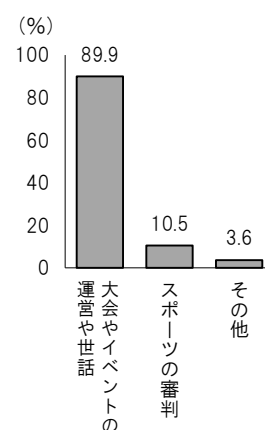
日常的な活動（n=345）



呉市及び地区のスポーツイベント（n=316）



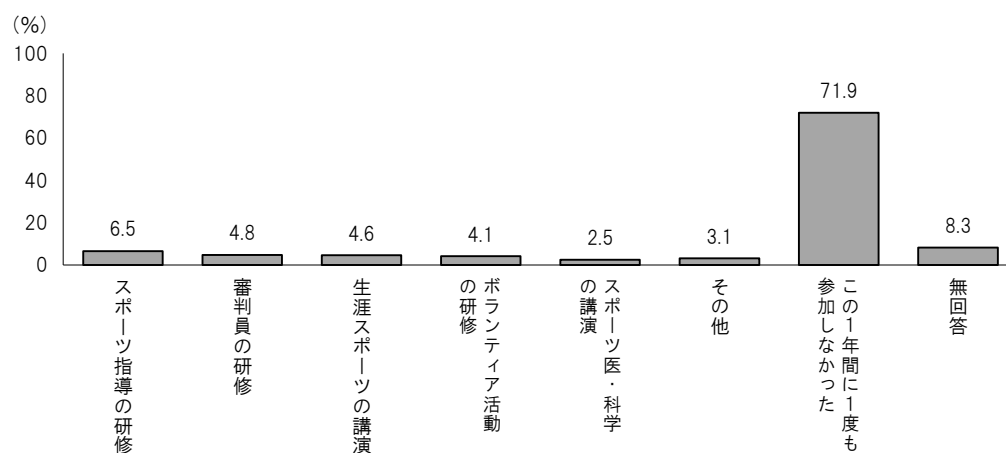
県・全国大会イベント（n=247）



注：無回答を含まない。

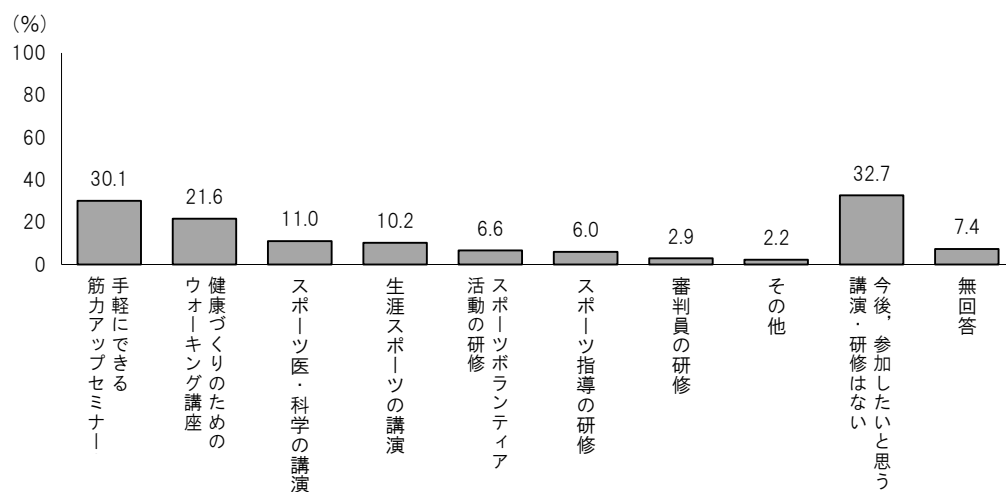
(17)この1年間に参加したスポーツ（健康づくりを含む）に関わる講演・研修等は何ですか？
（複数回答可）（n=1,696）

この1年間に参加したスポーツに関わる講演・研修等は、「スポーツ指導の研修」が6.5%で最も多く、次いで、「審判員の研修」、「生涯スポーツの講演」などの順となっています。
「この1年間に1度も参加しなかった」が71.9%となっています。



(18)今後、参加してみたいスポーツ（健康づくりを含む）に関わる講演・研修等がありますか？（複数回答可）（n=1,696）

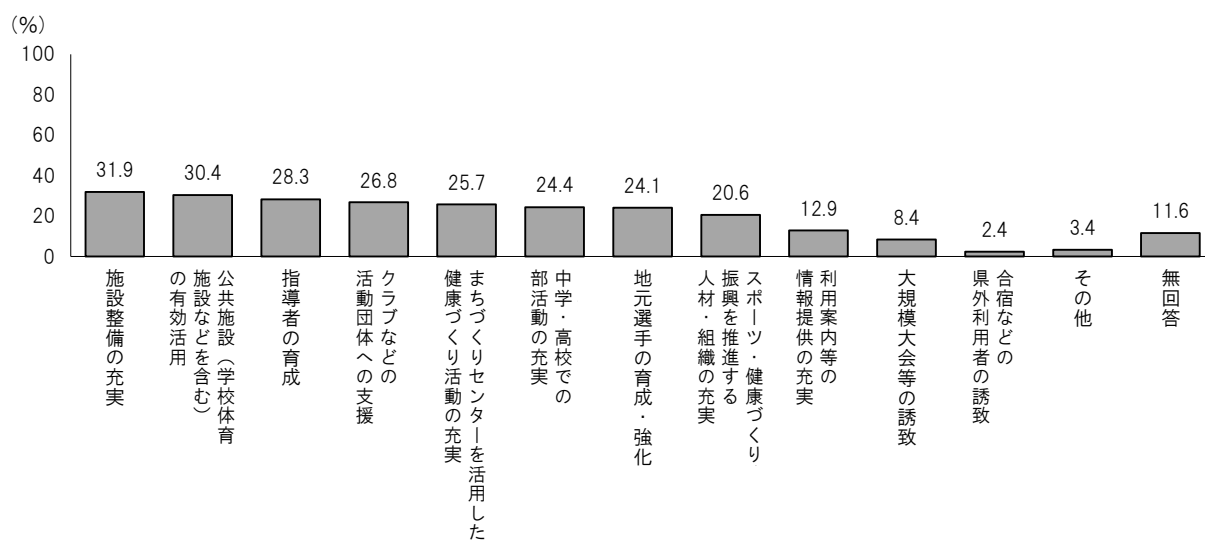
今後、参加してみたいスポーツに関わる講演・研修等は、「手軽にできる筋力アップセミナー」が最も多く、次いで、「健康づくりのためのウォーキング講座」、「スポーツ医・科学の講演」などの順となっています。
「今後、参加したいと思う講演・研修はない」は32.7%となっています。



(19)今後、スポーツ振興を図っていくために必要と思われるものは何ですか？

(三つまで回答可) (n=1,696)

今後、スポーツ振興を図っていくために必要なことは、「施設整備の充実」が最も多く、次いで、「公共施設（学校体育施設などを含む）の有効活用」、「指導者の育成」などの順となっています。



呉市二河野球場



呉市体育館



呉市総合体育館（オークアリーナ）



呉市総合スポーツセンター

6 呉市が抱える課題

(1) 呉市のスポーツ振興に関する現状から

ア 少子高齢化の進展及びニーズの多様化

呉市においても全国傾向と同様に、少子高齢化が急速に進んでいます。また、スポーツに対するニーズも多様化しています。今後は、子どもから高齢者までそれぞれのライフステージ、体力、障がいの有無等に応じたスポーツ活動を推進する必要があります。

イ スポーツ指導者の確保

呉市では、スポーツ推進委員の研修会、スポーツ少年団の指導者養成講習会などスポーツ指導者の養成や資質の向上に向けた取組が一部で行われていますが、高齢化や後継者不足により指導者の不足が生じています。スポーツを通じた地域の交流やスポーツ団体の活性化を進めるためにも、トップアスリートの活用により優秀な指導者を確保する必要があります。

ウ 多様なスポーツ施設の活用

呉市には、多様な種目に対応したスポーツ施設が整備されています。今後は、新しいスポーツ需要に対応した施設の整備・充実を計画的に行う必要があります。

(2) アンケート調査結果から

ア 新たなスポーツ活動への取組

今後、新たに行いたいと思うスポーツについて年齢別にみると、10代から30代では、「バドミントン」、「水泳」が多く、40代以上については、「筋力トレーニング」、「ウォーキング」が多くなっています。今後は、各年代のニーズに合わせ、スポーツイベントなどの情報を的確に発信し、市民のスポーツ活動への関心を高める必要があります。

イ スポーツ観戦機会の充実

スポーツ観戦については、「プロ野球」の試合が最も多く、今後観戦したい試合についても「プロ野球」とする回答が最も多くなっています。現在は、プロ野球、バレーボール、及びプロバスケットボールの試合誘致が行われていますが、3競技以外で観戦したいと思う競技も「プロサッカー」、「マラソン・駅伝」、「大相撲」などとなっています。今後は、多様な市民ニーズに応え、様々なスポーツ観戦の機会を充実させる必要があります。

ウ トップアスリートの育成

呉市出身選手の活躍について関心があると回答した人が、約8割を占めています。

今後は、「指導者の養成・招致」、「施設整備の充実」、「選手育成助成金の創設」などを行い、トップアスリートを育成する必要があります。

エ 参加しやすい講演・研修等

講演・研修等への参加状況では、この1年間に1度も参加しなかったとした人が約7割を占めていますが、今後の講演・研修等への参加については約7割が参加したいと回答しています。今後は、市民ニーズに合わせたテーマの設定が必要になります。

オ 利用しやすい施設

今後のスポーツ振興を図っていくためには、「施設整備の充実」や「公共施設の有効活用」が必要との回答が上位を占めています。今後は、新たな市民ニーズに応じて、施設の充実と質の向上を図る必要があります。

第3章 計画の基本的な考え方

1 目指すべき姿

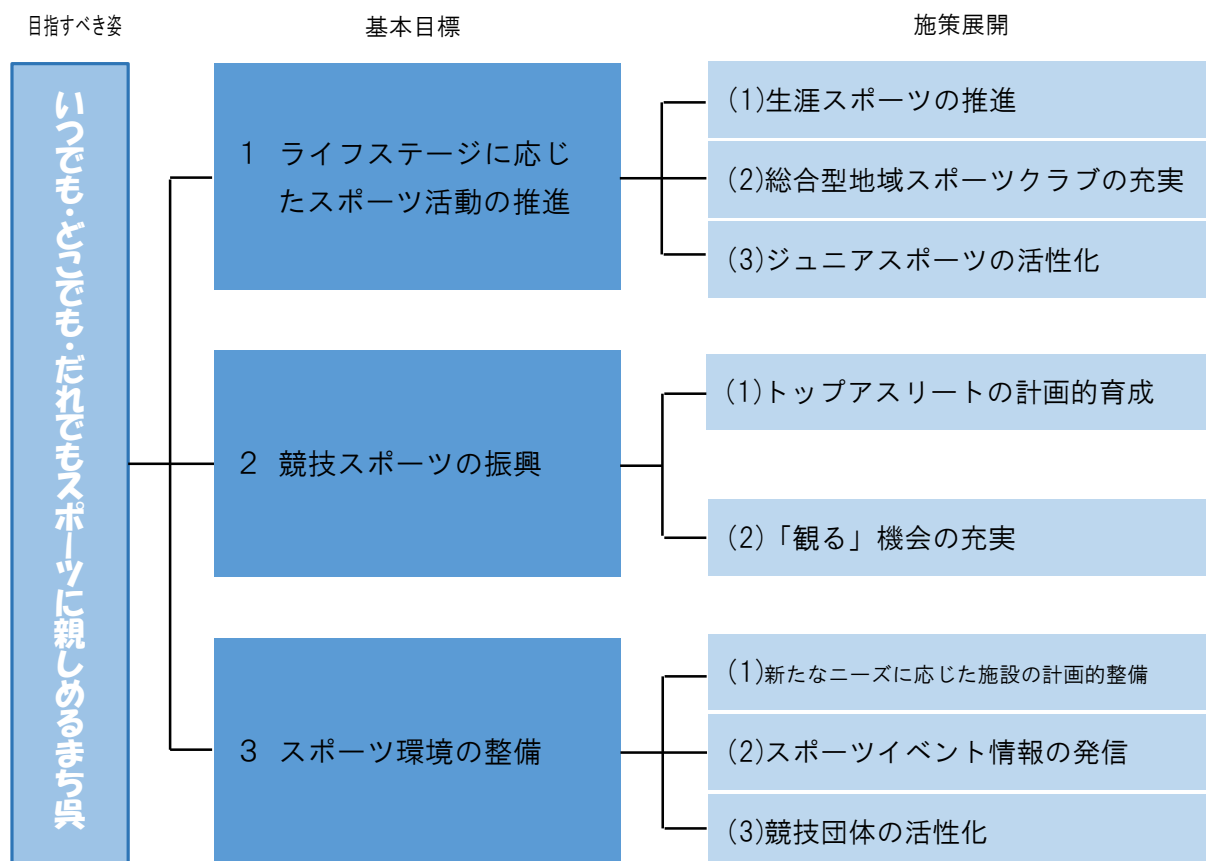
呉市スポーツ振興計画では、スポーツを取り巻く社会情勢の変化等に対応するため、平成18年度から27年度までの10年間、計画的な取組を推進してきました。

本計画では、今後の計画期間である10年間の目指すべき姿を、従前計画における基本的な考え方を踏襲しつつ、国の「スポーツ基本計画」、広島県の「スポーツ振興計画」の理念や市民アンケートの結果を参考にして、次のように設定しました。

いつでも・どこでも・だれでもスポーツに親しめるまち呉

2 基本目標及び施策の体系

本計画では、10年後を見据えた呉市らしいスポーツの在り方を推進していくため、スポーツ振興に関する施策を、以下の施策体系に基づき進めていきます。



【図-4：施策体系図】

第4章 基本目標及び施策の実施

1 呉市のスポーツの課題と課題解決に向けた方向性

基本目標1：ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

施策展開 (1) 生涯スポーツの推進

■現状と課題

スポーツは、競技力の向上だけでなく、健康づくり、礼儀作法や仲間とのコミュニケーションづくりなど、生活にゆとりと豊かさをもたらします。また、近年では心身に障がいのある人も積極的にスポーツに取り組み、楽しむ機運が高まっています。

このような中、呉市では、ディスクゲッター、カローリングなどのニュースポーツを体験できる体験型スポーツイベント（スポーツチャレンジデー）を実施しており、また、公益財団法人呉市体育振興財団等においては、スポーツイベントや健康づくり等の講座を開催するなど、生涯スポーツの普及に努めています。

今後は、スポーツの多様化するニーズや変化に対応し、一人一人のライフスタイルやライフステージに応じた多様なスポーツ種目や健康づくりの普及・振興を図るため、関係団体等と連携を深める必要があります。



スポーツチャレンジデー（ディスクゲッター）

※ニュースポーツ

ニュー・コンセプトチュアル・スポーツ（新しい考え方のスポーツ）の略称で、いろいろなスポーツを組み合わせたり、これまでのスポーツを簡素化して年齢や性別、障がいの有無にかかわらず楽しめる新しく創られたスポーツ

※スポーツチャレンジデー

呉市スポーツ推進委員協議会が実施する体験型スポーツイベント

■重点施策

生涯スポーツ・健康づくりの機会の創出

市民それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進として、関係官庁の各部署や呉市体育協会、公益財団法人呉市体育振興財団等との連携を密に進め、市民一人一人が生涯にわたって付き合えるスポーツや健康づくりの機会に出会えるような施策展開を図ります。

参加しやすい講演・研修会の開催

競技スポーツから誰でもできるスポーツ、高齢者のための健康づくりの一つとして講演会や研修会の開催を通じて生涯スポーツの啓発に努めます。

施策展開 (2) 総合型地域スポーツクラブの充実

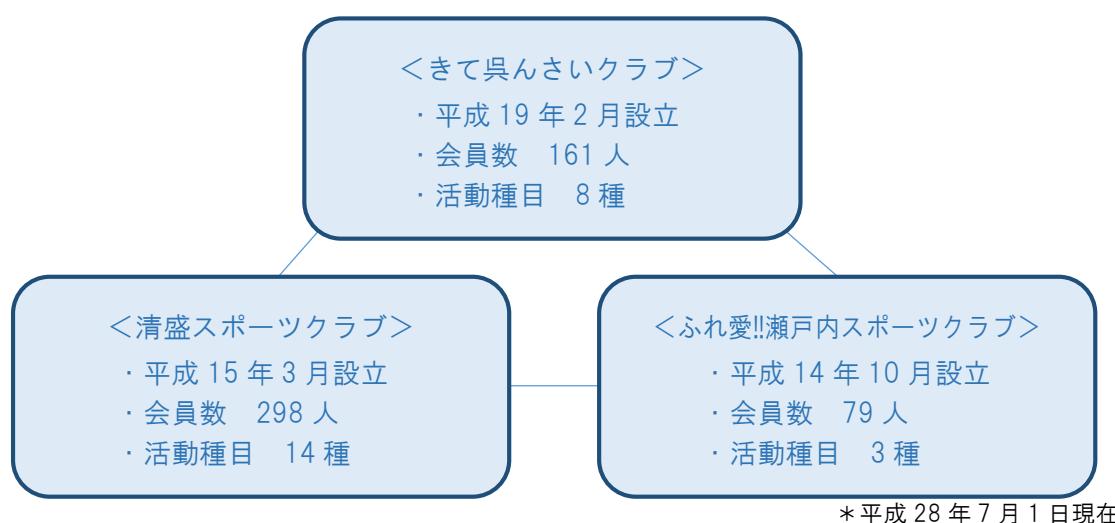
■現状と課題

呉市には、「きて呉んさいクラブ」、「ふれ愛!!瀬戸内スポーツクラブ」、「清盛スポーツクラブ」の三つの総合型地域スポーツクラブがあり、地域スポーツ活動の拠点として、気軽にスポーツに参加できる環境が整っています。

また、年間を通して、各種スポーツ大会やスポーツ教室が開かれ、地域の活性化・スポーツコミュニティの役割を果たしています。

しかしながら、会員の減少や財源、スポーツ指導者の確保が難しくなっており、加えて、ボランティアで活動している運営スタッフの高齢化が問題となっています。

このような状況の中、これらの直面する課題に対応するために、既設スポーツクラブの連携を強化し、人材を育成していく必要があります。



※総合型地域スポーツクラブ

従来の単一種目型、一定の年齢層を対象としたスポーツクラブと異なり、複数の種目において子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人が参加できる、自主運営の会員制スポーツクラブ

■重点施策

既設の総合型地域スポーツクラブの連携と拡充

平成 28 年度で設立 10 年を迎える、「きて呉んさいクラブ」を含め、既設のスポーツクラブとの連携を強化するとともに、生涯スポーツの普及を担うスポーツ推進委員の協力による適切な指導・助言を行い、更なる地域スポーツの活性化を図ります。

総合型地域スポーツクラブに関わる人材の養成と確保

総合型地域スポーツクラブのマネジメント人材を養成し、併せて各種スポーツ指導者の養成・確保の支援を行い、地域ニーズを検証して新たなクラブ運営を図るとともに、スポーツイベント開催の支援を目指します。

施策展開 (3) ジュニアスポーツの活性化

■現状と課題

呉市におけるジュニアのスポーツ活動は、小学生はスポーツ少年団、中学生及び高校生については学校の部活動が中心となっています。

スポーツ少年団においては、各種交流大会の実施、県民大会への参加促進等を行い、活動の充実を図っていますが、少子化の進展や運動をする子どもとしない子どもの二極化傾向などの問題に伴い、団員数・部員数が年々減少してきており、団体種目においてはチームが組めない状況も生じています。

今後は、ジュニアスポーツ人口の減少に歯止めを掛けるため、児童・生徒の運動への関心及び運動能力の全体的な底上げを行い、全てのジュニアスポーツ活動の充実を図っていく必要があります。

【呉市スポーツ少年団の登録状況】

(単位：団，人)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
団 数	79	77	74	74	73
団員数	1, 719	1, 657	1, 581	1, 574	1, 515

【呉市中学校運動部活動状況】

(単位：部，人)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
部活数	163	159	164	158	163
生徒数	4, 150	4, 110	4, 103	3, 950	3, 823



呉市スポーツ少年団大会



呉市スポーツ少年団交歓軟式野球大会

■重点施策

トップアスリートとの連携による体育授業等の充実

平成 27 年度から、児童生徒の運動意欲の向上、技能や技術の習得及び教職員の指導力向上を図るため、トップス広島等に所属するトップアスリート等による体育授業での講話・実技指導、運動部活動等での専門的な指導を実施しています。

今後は、トップス広島等の関係団体との連携を継続し、事業の更なる充実やジュニアスポーツの活性化を目指します。

また、自らの経験を基に語るトップアスリートの言葉は、子ども達に大きな影響を与えます。

今後は、スポーツの楽しさや具体的な目標を設定することの大切さ等を伝えるとともに競技意欲を向上させるため、子ども達がトップアスリートに触れる機会の充実を図ります。

【平成 27 年度トップス広島等による学校派遣事業】

(単位：回数)

競技種目	派遣団体等	体育(保健体育)授業		中学校 運動部 活動	スポーツ イベント等	計
		小学校	中学校			
陸上競技	エディオン女子陸上競技部	3	1	1		5
	中国電力陸上競技部	1				1
	マツダ陸上競技部OB		1			1
	為末 大				1	1
ハンドボール	ワクナガレオリック		1			1
	広島メイプルレッズ	2				2
バレーボール	J Tサンダーズ	1	1	1		3
バスケットボール	広島ドラゴンフライズ	1	1	1		3
サッカー	サンフレッチェ広島	1				1
	久保 竜彦	1	3	1		5
ソフトボール	日新製鋼ソフトボール部			1		1
野球	広島東洋カープOB会				1	1
計		10	8	5	2	25

※トップス広島

広島に拠点を置く全国トップレベルのスポーツクラブが連携して広島のスポーツを盛り上げるため、設立したNPO法人（正式名称：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク）

トップス広島 参加団体

サンフレッチェ広島（サッカー男子）

J Tサンダーズ（バレーボール男子）

ワクナガレオリック（ハンドボール男子）

広島メイプルレッズ（ハンドボール女子）

広島ガスバドミントン部（バドミントン女子）

N T T西日本広島ソフトテニスクラブ（ソフトテニス男子）

中国電力陸上競技部（陸上競技男子）

コカ・コーラウエストレッドスパークス（ホッケー女子）

広島東洋カープ（野球男子）

■重点施策

中学校運動部活動における外部指導者の拡充

現在，市内の中学校 18 校で外部指導者の活用をしています。

今後は，教員の部活動業務への負担を軽減し，部活動指導の充実や部活動の活性化を図るため，外部指導者（地域のスポーツ指導者）などの積極的な活用を目指します。

基本目標 2：競技スポーツの振興

施策展開 (1) トップアスリートの計画的育成

■現状と課題

呉市では、呉市体育協会、呉市スポーツ少年団、公益財団法人呉市体育振興財団等と連携し、スポーツ界で活躍できる人材の育成を図っていますが、少子化による児童生徒の減少、興味・関心の多様化などにより、人材発掘においても厳しい状況になっています。

呉市ゆかりのスポーツ選手の活躍は、スポーツへの関心を高め、市民に夢や感動、郷土への誇りをもたらす力となります。

平成 28 年度には、プロ野球ドラフト会議において呉市出身者 2 名（ともに呉市スポーツ少年団出身）が指名され、また、市立呉高等学校硬式野球部が、創部 10 年目で第 89 回選抜高等学校野球大会への出場を果たすなどし、郷土愛や連帯感が高まりました。

今後は、計画的に関係団体と一体となって、優れた体力・運動能力を持つ児童生徒の発掘・育成を行うとともに、指導者の資質向上などの取組を行い、トップアスリートを輩出できる仕組みづくりを引き続き進めていきます。

【全国大会出場実績】

（単位：件、人）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
出場件数	67	64	59	57	58
出場人数	334	467	361	378	361
国民体育大会	18	42	20	18	23
高校生大会	79	97	38	27	83
中学生大会	19	32	38	34	26
小学生大会	45	32	62	117	83
その他	173	264	203	182	146

■重点施策

学校法人日本体育大学との連携強化

平成 27 年 8 月に学校法人日本体育大学と体育・スポーツ及び健康づくりの分野において、双方の発展と社会貢献を目的とした「スポーツ振興に関する協定」を締結し、平成 28 年度には、同大学との連携事業として、優秀な成績を残している呉の子ども及び指導者の大学合宿への派遣、中学校運動部活動への講師招へいによる技術指導、呉とびしまマラソンへの学生ランナー招へい、呉市健康の日ウォーキング大会での講演会を実施しました。

今後は、大学が持つ専門的な知識、ノウハウ、人材等を積極的に活用するため、更に連携を深め、新たな事業の展開を検討していきます。

施策展開 (2)「観る」機会の充実

■現状と課題

市民が年齢や体力に応じて、また、スポーツへの参加の度合いに関わらずスポーツに触れる機会を設けることは、スポーツを振興していく上で重要であると考えます。

スポーツを「観る」という機会を得て、トップレベル選手のプレーや試合を見ることは、市民の生活に夢や楽しみを与える一助となっています。

現在、市民がトップスポーツを「観る」機会としては、平成 28 年度にプロ野球公式戦を呉市二河野球場で、また、バレーボールVプレミアリーグ、プロバスケットボールBリーグがオークアリーナで開催されました。

【呉市内開催主要スポーツイベント観客動員数の推移】

(単位：人)

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
プロ野球公式戦	13,334	試合開催なし	13,026
バレーボールVプレミアリーグ	4,535	4,785	4,231
プロバスケットボールBリーグ	1,515	1,680	2,938

* V プレミアリーグ及び平成 28 年の B リーグは、2 日間合計の数字。



プロ野球公式戦



全国高等学校総合体育大会

■重点施策

トップスポーツに触れる場の設定

市内在住の小・中学生や高校生を試合観戦に招待し、トップレベルの技術に触れてもらうことで、夢ややる気を喚起し、成長の一助となるよう取り組みます。

また、スポーツ人口の裾野拡大を図るため、幼少期からトップスポーツに触れる場を設けます。

スポーツ観戦機会の充実

現状は、プロ野球、バレーボールVプレミアリーグ及びプロバスケットボールBリーグの試合誘致が行われていますが、今後は現状に加え、プロに限らず、アマチュアも含めた様々なトップレベルの大会や試合の誘致を図り、スポーツ観戦を楽しむ機会を増やすことで、市民生活環境の向上に寄与します。

基本目標 3 : スポーツ環境の整備

施策展開 (1) 新たなニーズに応じた施設の計画的整備

■現状と課題

戦後、全国に先駆け、いち早く整備された呉市のスポーツ施設は、これまでも市民のスポーツ振興に多大な貢献をしてきました。

現在では、大規模な大会を開催できる拠点施設だけでなく、各地域にある単体種目のスポーツ施設、学校施設、公園の多目的広場など、多種多様なスポーツに使用することができる地域施設や空間も活用され、市民が多様なスポーツ活動に参加しています。しかしながら、老朽化や競技の近代化、市民のライフスタイルの変化により、競技者や市民のニーズに十分に対応できていない施設が多く、快適に使用するための設備や機能などが不足しており、更なる質とサービスの向上に取り組む必要があります。

今後は、呉市公共施設等総合管理計画と整合性を図りながら、安全性の確保、施設の特性、地域の実情、利用実態を踏まえ、また、施設の有効活用、維持管理経費の削減を考慮し、既存老朽施設の改修や新しいスポーツ需要に対応した施設の整備・充実を計画的に行っていきます。

■重点施策

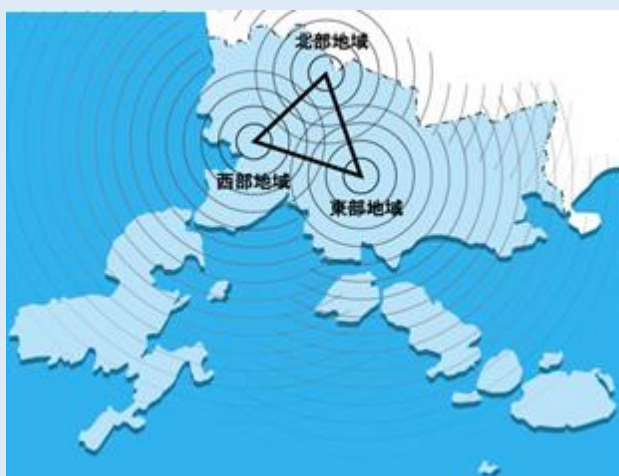
拠点スポーツ施設の充実

拠点スポーツ施設は、大規模な大会などを運営することが可能で、呉市のスポーツにおける競技力の向上やジュニア・指導者の育成を図るために大きな役割を担っています。

現在は、幹線道路網の整備によりアクセス強化された西部地域、東部地域、北部地域を中心に拠点施設がバランス良く配置されており、地域や行政区域を越えた全市的なスポーツの場として多くの方が利用しています。

しかしながら、元々、民間の厚生施設として整備された呉市総合スポーツセンターや、建設から50年以上経過し老朽化が進む呉市体育館などについては、大会を開催するには不十分で、機能的な課題が多く見られます。

今後は、これらの課題を解決するため、屋外スポーツの拠点「呉市総合スポーツセンター」を有する北部地域、屋内スポーツの拠点「呉市総合体育館（オークアリーナ）」を有する東部地域、「呉市二河野球場」や「屋内温水プール（建設整備中）」を有する西部地域を中心に、施設規模や利用対象、利用目的などを考慮しながら、より大規模な大会を開催できるよう、機能向上や利便性の向上を踏まえた施設整備に努めていきます。



【図-5：拠点連携イメージ図】

■重点施策

既存地域施設の有効活用と整備

より多くの市民が、身近な場所で快適にスポーツを楽しめるよう、各地域にあるスポーツ施設、学校体育施設や公園などの多目的に利用できる空間の活用も含め、利用ニーズの高い施設の機能を維持するための改修を行うなど、施設の有効活用、利用の効率化や地域による不均衡の解消に取り組みます。

また、厳しい財政状況の中、市民が気軽にスポーツを楽しむことができる場所や機会を増やし安全で快適に施設を利用できるよう努める一方で、利用が著しく少ない施設や既に目的を果たし老朽化している施設については、利用実態や地域の実情等を勘案しながら、存り方を含め整備の方向性を検討していきます。

高齢社会に対応した生涯スポーツ施設の整備

市民誰もが健康で生きがいのある生活を送るため、ボウリング、ソフトバレーボール、卓球、グラウンド・ゴルフなど、生涯にわたり実践・継続をしていけるようなスポーツが盛んになっています。

とりわけ、グラウンド・ゴルフはルールが簡単で初心者でもすぐに取り組むことができることから、全国で急速に普及し、呉市においても高齢者を中心に愛好者が増加しており、各地域の広場などで仲間達と余暇を楽しんでいます。

このような背景の中、時代の新たなニーズにより生まれてきたニュースポーツに気軽に親しむことができるよう、施設の整備や既存施設の活用の在り方について検討するとともに、バランスの良いスポーツ施設の配置に取り組みます。

競技備品等の維持更新

スポーツ施設は、各種競技に必要な競技備品や附帯設備が整った状態で、初めて公式に競技を行うことができます。

現状の機能を維持し時代のニーズに対応するため、施設規模、施設の目的に合わせ、設備・機械等の更新や機能向上のための整備を実施していきます。

利便設備の充実・サービスの向上

快適に施設を利用するには、不足している設備を補い、機能を強化する必要があります。

トイレの洋式化や駐車場の整備など、時代により変化するライフスタイルや多様化する市民ニーズに対応した利便設備の充実に努めていきます。

また、施設予約の利便性を高めるために導入した「ひろしま公共施設予約システム」については、市民がスポーツ施設の利用状況をさらに簡単に把握でき、施設利用の向上や施設管理の効率化につながるよう、システムの改良に努めていきます。

施策展開 (2) スポーツイベント情報の発信

■現状と課題

現在、様々なスポーツ大会やイベントの情報発信は、開催団体や各部署それぞれにおいて行われており、一元的ではなく、市民から見ると複雑で、継続して情報を得にくい環境となっています。

市民が「こんなスポーツをしてみたい」、「このスポーツの大会や講習はないのか」など、思い立ったときに的確な情報を得ることができる環境を整える必要があります。

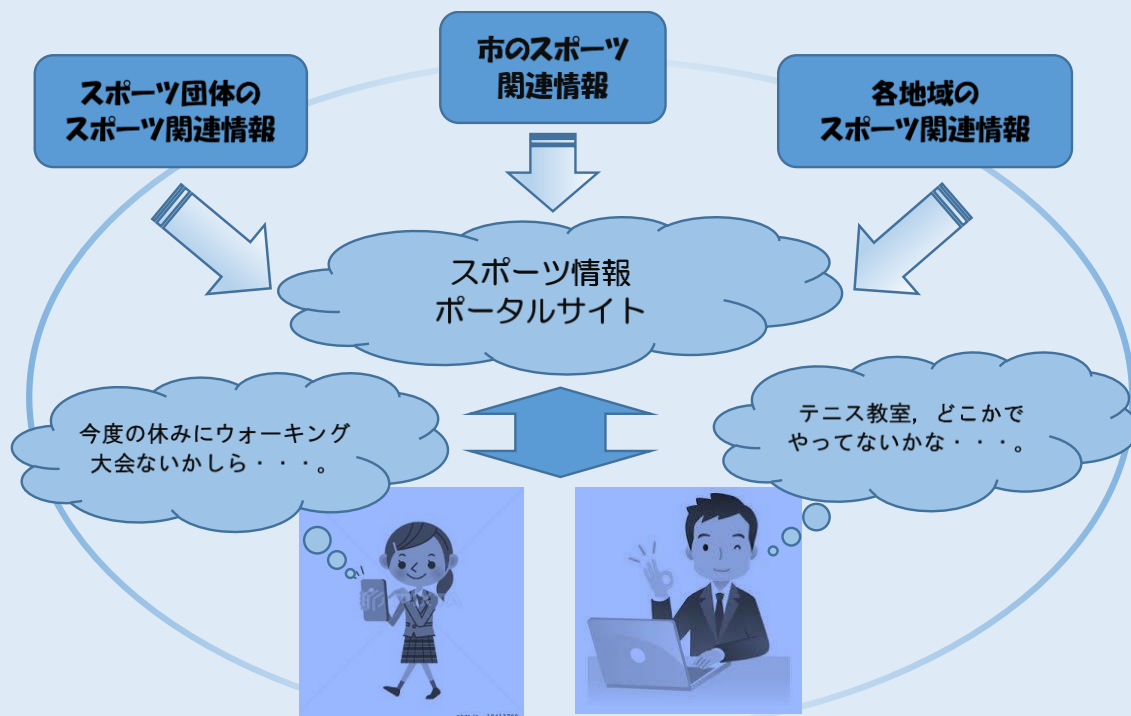
■重点施策

市民ニーズに即した情報提供

呉市や公益財団法人呉市体育振興財団等のスポーツ施設の指定管理者の広報媒体を活用し、各団体等と連携しながら、子どもから高齢者まで、幅広い市民ニーズに的確に対応した情報提供を行います。

スポーツ情報ポータルサイトの開設

誰もが気軽に情報を入手することができるよう、ICT（Information and Communication Technology）を活用し、各地区で行われるスポーツ大会やスポーツイベント、また、スポーツ施設クラブ・サークルの紹介、参加者の声など、呉のスポーツ情報を総合的に発信する情報サイト（ポータルサイト）の開設に取り組みます。



【図-6：スポーツ情報ポータルサイト イメージ図】

施策展開 (3) 競技団体の活性化

■現状と課題

呉市におけるアマチュアスポーツは、実業団スポーツを中心に盛んに行われ、特に団体競技では全国的にも優秀な成績を収めてきました。また、プロスポーツの分野においては、多くのプロ野球選手を輩出するなど、「スポーツ王国くれ」の礎を築いてきました。

少子高齢化が進み、社会情勢が目まぐるしく変わる近年は、実業団スポーツが縮小傾向にあるものの、競技種目の多様化が進んでいます。

これからは、これまで培われてきたスポーツに係る呉市のイメージを保持しながらも、更に競技スポーツの裾野を広げる必要があります。

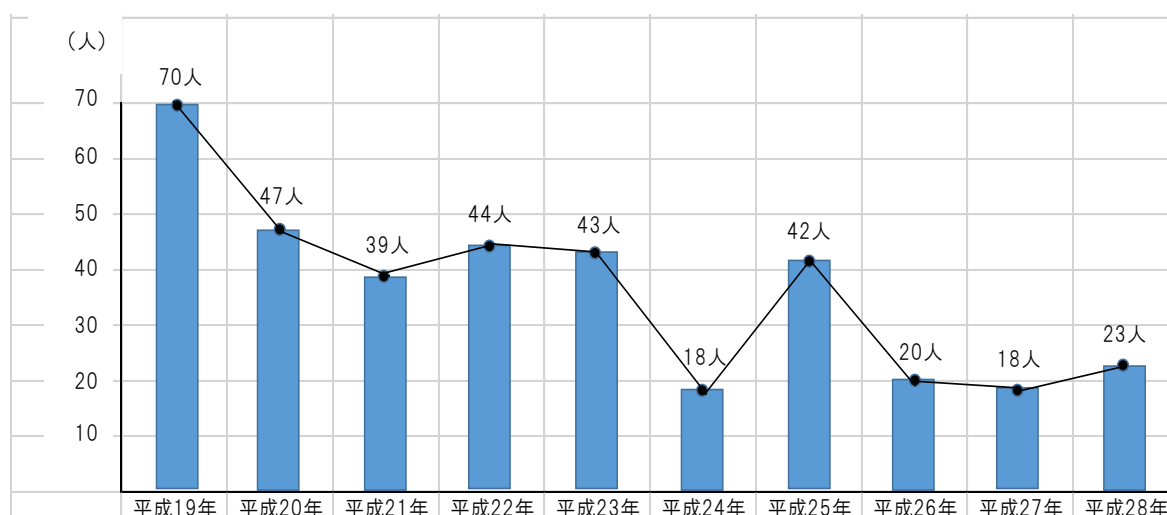
【呉市体育協会加盟競技団体（スポーツ少年団を除く）】

陸上	サッカー	剣道	セーリング	ボウリング	綱引き
軟式野球	卓球	射撃	水泳	空手	ゴルフ
ソフトボール	バスケットボール	バドミントン	テニス	エスキーテニス	太極拳
バレーボール	柔道	ラグビー・フットボール	アーチェリー	少林寺拳法	グラウンド・ゴルフ
ソフトテニス	ハンドボール	弓道	スキー	ゲートボール	

各競技力の底上げやレベルアップが、競技スポーツの魅力アップにつながります。競技スポーツの最高峰であるオリンピックに出場するためには、国内において厳しい選考基準をクリアする必要があります。その指標の一つとして、国内最大のスポーツの祭典である国民体育大会に出場し、優秀な成績を収めることが一つの試金石と考えます。

呉市から、オリンピックなどの国際大会に出場する選手を輩出するために、国民体育大会の出場者増加に向けて、各競技団体と連携し、優秀な指導者や選手の育成を図る必要があります。

【国民体育大会出場者数の推移】



■重点施策

競技力向上への支援

呉市に関係するスポーツ選手が、全国規模のスポーツ大会等で活躍することができるよう競技団体等と連携し、環境整備に努めるとともに、競技団体に対して助成金等を交付することで、競技力向上に向けた支援を継続して行います。

スポーツ関連イベントの開催

これまで行われてきた市民体育大会、体育祭、ロードレース、駅伝大会、マラソン大会などのスポーツイベントに対する市民ニーズをしっかりと把握し、それに応じた魅力あるイベントを開催することで、子どもから高齢者まで全ての市民のスポーツ交流とスポーツを通じた呉市の情報発信を行っていきます。



呉市体育祭



呉とびしまマラソン



ロードレース“くれ”



呉市民体力テスト会

指導者養成のためのサポート体制の整備

多様化、高度化しつつある市民のスポーツニーズを的確に把握し、適切な対応や指導ができるスポーツ指導者等の養成に努めるとともに、競技の普及促進に貢献した指導者等に対する表彰制度など、サポート体制の整備に努めます。また、地域から輩出したアスリートが引退後に指導者となり、新たなアスリートを育てる体制の整備に努めます。

2 事業実施計画一覧表

本計画に掲げる各種施策を計画的、かつ、効率的に実施していきます。

基本目標	施策展開	重点施策	実施主体	実施期間		
				短期	中期	長期
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	生涯スポーツの推進	生涯スポーツ・健康づくりの機会の創出	呉市, 呉市スポーツ推進委員協議会			
		参加しやすい講演・研修会の開催	呉市			
	総合型地域スポーツクラブの充実	既設の総合型地域スポーツクラブの連携と拡充	呉市, 総合型地域スポーツクラブ			
		総合型スポーツクラブに関わる人材の養成と確保	呉市, 総合型地域スポーツクラブ			
	ジュニアスポーツの活性化	トップアスリートとの連携による体育授業等の充実	呉市, 呉市教育委員会			
		中学校運動部活動における外部指導者の拡充	呉市, 呉市教育委員会			
競技スポーツの振興	トップアスリートの計画的育成	学校法人日本体育大学との連携強化	呉市, 呉市教育委員会, 呉市体育協会			
	「観る」機会の充実	トップスポーツに触れる場の設定	呉市, 呉市体育振興財団, 呉市体育協会			
		スポーツ観戦機会の充実	呉市, 呉市体育振興財団, 呉市体育協会			
スポーツ環境の整備	新たなニーズに応じた施設の計画的整備	拠点スポーツ施設の充実	呉市, 指定管理者			
		既存地域施設の有効活用と整備	呉市, 呉市教育委員会, 各競技団体			
		高齢社会に対応した生涯スポーツ施設の整備	呉市			
		競技備品等の維持更新	呉市, 指定管理者			
		利便設備の充実・サービスの向上	呉市, 指定管理者			
	スポーツイベント情報の発信	市民ニーズに即した情報提供	呉市, 指定管理者			
		スポーツ情報ポータルサイトの開設	呉市, 指定管理者, 民間団体			
	競技団体の活性化	競技力向上への支援	呉市, 呉市体育協会			
		スポーツ関連イベントの開催	呉市, 呉市体育協会			
		指導者養成のためのサポート体制の整備	呉市, 呉市体育協会			

*「実施時期」について、「短期」はおおむね3年以内、「中期」はおおむね5年以内、「長期」はおおむね10年以内での事業実施を目標としています。

第5章 計画の推進に向けて

1 基本的姿勢

本計画は、呉市の新たなスポーツ振興に係る計画であり、「いつでも・どこでも・だれでもスポーツに親しめるまち呉」の実現のためには、行政（呉市）だけでなく、市民、教育機関、スポーツ活動に関わるNPO法人やスポーツ団体、民間事業者などを含めた地域全体が連携する必要があることから、本計画の推進に当たっては、相互連携と情報の共有化を図りながら、事業の推進・調整を行います。

また、家庭、地域、学校、企業及び行政それぞれが役割分担のもと、互いに協力しながら、呉市のスポーツ振興に関わる様々な施策を効果的・効率的に推進します。

2 評価指標

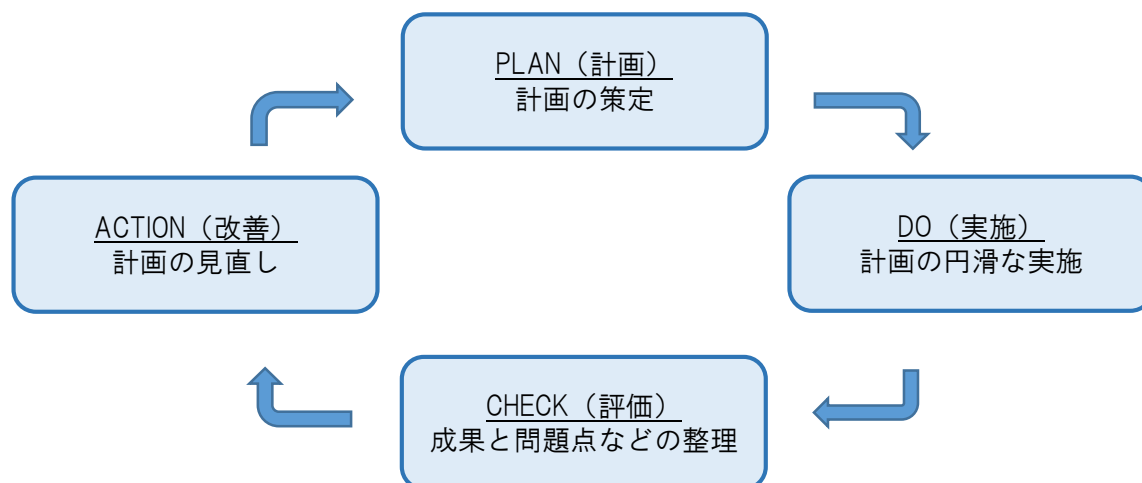
本計画に基づく施策の達成状況を客観的に評価するため、P25【図-4：施策体系図】の施策展開ごとに指標を設定し、効果・検証を行います。

基本目標	施策展開	指標	単位	現状値 (H28)	目標値 (H38)
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	(1)生涯スポーツの推進	スポーツを定期的（週1回以上）に行う市民の割合	%	56.9	<u>65 以上</u>
	(2)総合型地域スポーツクラブの充実	総合型地域スポーツクラブの会員数	人	538	<u>650 以上</u>
	(3)ジュニアスポーツの活性化	スポーツ少年団団員数及び中学校運動部活動生徒数	人	5,338	<u>5,800 以上</u>
2 競技スポーツの振興	(1)トップアスリートの計画的育成	全国大会出場者数	人	361	<u>430 以上</u>
	(2)「観る」機会の充実	スポーツ観戦率（年1回以上）	%	63.5	<u>75 以上</u>
3 スポーツ環境の整備	(1)新たなニーズに応じた施設の計画的整備	公共スポーツ施設等の利用者数（年間延べ人数）	人	1,594,285 (速報値)	<u>190 万 以上</u>
	(2)スポーツイベント情報の発信	スポーツ情報を総合的に発信する情報サイトの開設	—	—	<u>情報サイトの開設</u>
	(3)競技団体の活性化	体育協会加盟人数	人	15,630	<u>17,000 以上</u>

3 進捗の管理・評価

本計画に基づく施策を効率的・効果的に展開していくため、PDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）による進行管理を行い、進捗状況や達成状況の把握・分析に努めます。

あわせて、社会経済情勢や市民ニーズの変化などに柔軟に対応できるよう、必要に応じて事業内容の見直しを行うなど、継続的な改善に努めることで、計画実現に向けた継続的な取組の推進を図ります。



【図-7：計画実施における PDCA サイクル】